

年報

第 37 集

平成 18 年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

序

近年、明治以降の産業に関わる文化的遺産に目が向けられてきています。文化庁は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を新たに世界文化遺産に推薦するための暫定リストに追加しました。

本市にも、近代化を支えた養蚕・製糸業等にかかわる「近代化遺産」といわれる歴史的建造物が点在していますが、産業構造の変革や技術革新により取り壊されるなどしてその数は激減しています。残された数少ないこれらの建造物の保存・活用も含め、かつて「糸の町」として栄えた前橋の記録を残し、後世に伝えていくことが、本市文化財保護行政に課せられた大きな使命ではないかと考えます。

さて、前橋市内の指定文化財は、国・県・市合わせて 297 件、さらに、国登録有形文化財は、平成 19 年 5 月 15 日付で登録原簿に記載された「旧麻屋呉服店店舗」及び平成 19 年 7 月 31 日付で登録原簿に記載された「上毛電気鉄道大胡駅駅舎」等 8 件を加え 18 件を数え、先人の歩んできた足跡を確かに形で見ることができます。これらを残し、後世に継承していくとともに、地域の人々と共に共有し、有効に活用していくことが今求められています。

本市教育委員会では、文化財普及事業として、市内にある文化財を見学する文化財探訪、市内の史跡等を活用した古代生活体験学習、各学校へ出向いての文化財に関わる出張授業、史跡整備が完成した大室公園を活用した普及事業、発掘調査を行っている現場での現地説明会等を実施いたしました。いずれも好評を博し、多くの参加者や見学者がみられました。

埋蔵文化財発掘調査においても、大きな成果をあげることができました。特に、今年度より 5 カ年の計画で行われている山王廃寺跡の調査では、講堂の範囲が明らかになるとともに、回廊の一部ではないかと考えられる遺構が検出されました。山王廃寺の全容の解明へ、大きな前進が見られました。

本書は、平成 18 年度の文化財保護の事業概要をまとめたものです。この報告書が皆様方の文化財に対する理解を深め、より一層の保存・活用に向けての契機となれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

平成 19 年 11 月

前橋市教育委員会

教育長 中澤 充裕

目 次

序

I	文化財調査委員による調査	1
II	近代化遺産調査	2
III	新登録文化財	
1	旧麻屋呉服店店舗	5
2	上毛電気鉄道大胡駅駅舎 他 6 件、上毛電気鉄道荒砥川橋梁	6
IV	文化財保護事業	
1	保護管理運営事業	8
2	整備事業	11
3	普及事業	13
4	埋蔵文化財発掘調査事業	20
5	市内遺跡発掘調査事業	42
6	遺跡台帳整備事業	42
7	埋蔵文化財資料整備事業	43
8	山王魔寺等保存整備事業	44
付編	遠見山古墳出土の埴輪について	45
あとがき		

I 文化財調査委員による調査

1 新市域所在の市指定文化財調査

市町村合併により、旧町村で指定した文化財は前橋市へ引き継がれ、前橋市指定文化財となった。そこで、新市域に所在する市指定文化財の把握と基礎的な資料の収集を目的として、文化財調査委員による調査を2年にわたって実施することとなった。今年度はその1年次にあたり、9月20日、25日の2日間実施した。調査した物件は以下のとおりである。

第1日 9月20日

粕川地区

市重文138	近戸神社御興	粕川町月田1162 近戸神社
市重文139	三ヶ尻赤城塔	粕川町深津994
市重文140	馬頭観世音石像	粕川町稻里481-1
市史跡46	女瀬城跡	粕川町女瀬1221-1他
(市無民4	御靈神社太々神楽	粕川町女瀬1174-1 御靈神社)
市史跡47	中村城跡	粕川町中496他
市史跡48	坂田城(深津館)跡	粕川町深津1357-2他
市有民6	三番叟かしら 附 付属古文書	粕川町膳89 粕川出土文化財管理センター

宮城地区(馬場)

市重文83	小林の赤城塔	苗ヶ島町599
市重文105	石仏(山街道薬師)	苗ヶ島町631-1
市重文110	あ・うん石仏	馬場町29-1 稲荷神社
市重文111	馬頭観世音	馬場町29-1 稲荷神社
市重文112	古屋敷古墳	馬場町458
市重文113	板碑、凝灰岩石仏	馬場町459-1
市重文114	石殿	馬場町402-8
市重文115	凝灰岩石仏	馬場町409-5
市史跡32	馬頭観音の塔	馬場町67-1
市史跡33	馬場の大灯籠	馬場町56-2
市史跡35	新山古墳	馬場町104-3

第2日 9月25日

大胡地区

市重文77	五十山薬師如来、十二神将	堀越町968-1
市重文78	大胡神社の算額	河原浜町638 大胡神社
(市無 9	太々神楽の舞	河原浜町638 大胡神社)
市史跡20	道しるべ	大胡町80
市史跡21	道しるべ	河原浜町730
市史跡22	牧野家墓石	堀越町1259 養林寺
市史跡24	稲荷塚古墳	上大屋町8 大胡神社
市史跡25	龍性寺石幢	茂木町1203 龍性寺
市史跡26	堀越共同墓地の石幢	堀越町2122
市史跡27	鹿沼家墓地の石幢	上大屋町133
市天 8	桟樹林	河原浜町143

宮城地区(大前田)

市重文84	世良田薬師の阿弥陀像	大前田町542-1
市重文135	凝灰岩薬師石仏	大前田町1380-1
市重文136	大前田地蔵菩薩石像	大前田町1738-1
市史跡41	大前田栄五郎の墓	大前田町1785-7
市史跡42	大前田内出居砦跡	大前田町1328-1他

※ () は現地確認と説明板等の調査のみ実施

II 近代化遺産調査

1 調査の目的

本市には、近代化を支えた「近代化遺産」といわれる歴史的建造物が点在しているが、産業構造の変革や技術革新により取り壊されるなどしてその数は激減している。そこで、前橋市教育委員会では、現状を把握するため、平成2~3年に実施された「群馬県近代化遺産総合調査」でリストアップされた物件の実態調査を平成15年度に行った。そして、この調査の結果に基づき、さらに詳細な調査が必要な物件を絞り込み、専門家による建造物調査を実施することとした。

専門家による調査を通して、文化財の指定・登録など保護のための基礎資料を得るとともに、歴史を踏まえたまちづくりに寄与することを目的とし、旧大竹家煉瓦蔵、旧奈良製糸所生糸倉庫、旧勝山社煉瓦蔵の3棟について、以下の3点を踏まえた調査を実施した。

①煉瓦蔵の基本図(配置図・平面図・立面図・断面図)を作成する。

②建築年代の調査を行い、痕跡調査を通して経年の変化を調べる。

③建築年代を確定するための文献調査を行う。

2 調査を委託した専門業者

協同組合 群馬建築修復活用センター

代表理事 家泉 博

設立年月日 平成10年2月4日

所在地 前橋市下細井町344-3

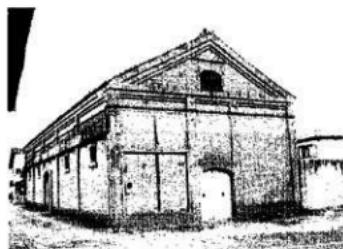
電話 027-289-7150

一級建築士事務所登録 群馬県知事登録 3396号

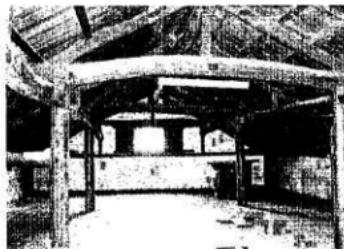
3 調査を実施した物件の概要

(1) -①旧大竹家煉瓦蔵

所在地	前橋市三河町一丁目16-27		
建築年代	大正12年(推定)	証拠物件	なし
構造形式	煉瓦造	桁行	26,236mm
階数	2階建て	梁間	9,610mm
屋根	日本瓦葺き(陶器瓦)	床面積	252.13m ²
基礎	煉瓦積	高さ	約8.1m
煉瓦寸法	220×105×55mm(平均値)	外部仕上	煉瓦積(イギリス積)
目地巾	10mm	内部仕上	床:1階 モルタル金鏡、2階 板張 壁:漆喰塗 天井:表し
壁厚さ	約1本分		
大工名	不明	扉形式	両引戸(トタン貼)



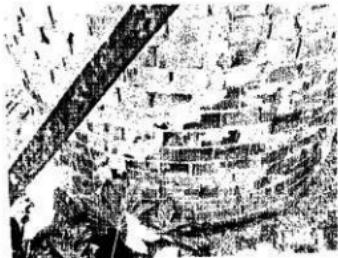
旧大竹家煉瓦蔵



旧大竹家煉瓦蔵の和小屋組

(1) - ②旧大竹家煉瓦蔵付属煙突

所在地	前橋市三河町一丁目 16-27		
建築年代	大正 12 年 (推定)	証拠物件	なし
構造形式	煉瓦造	高さ	15.7m
基礎	煉瓦積	直径	上部: 0.8m 下部: 1.55m
煉瓦寸法	小口 105×55 mm	外壁仕上	煉瓦積 (ドイツ積)
目地巾	10 mm	大工名	不明
壁厚さ	不明		



旧大竹家煉瓦蔵付属煙突接地部分



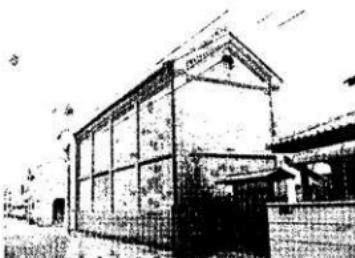
旧大竹家煉瓦蔵付属煙突上部

(2) 旧奈良製糸所生糸倉庫

所在地	前橋市日吉町二丁目 5-7		
建築年代	大正 8 年 証拠物件: 捜札		
構造形式	煉瓦造	桁行	1 階: 14,654 mm 2 階: 14,765 mm
階数	2 階建て	梁間	1 階: 4,652 mm 2 階: 4,778 mm
屋根	日本瓦葺き	床面積	1 階: 68.17 m ² 2 階: 70.55 m ²
基礎	切り石	高さ	約 9.1m
煉瓦寸法	222×108×58 mm (平均値)	外部仕上	煉瓦積 (イギリス積)
目地巾	10 mm	内部仕上	床: 1 階 不明、2 階 板張 壁: 漆喰塗 天井: 垂木、化粧野地板表し
壁厚さ	1 階: 約 1.5 本分 2 階: 約 1 本分	大工名	鷲崎惣吉
大工名	中澤順作	鷲名	小黒留吉
煉瓦師名	早川榮太郎	石工名	



旧奈良製糸所生糸倉庫 (南東から)



旧奈良製糸所生糸倉庫 (北西から)



旧奈良製糸所生糸倉庫の装飾窓



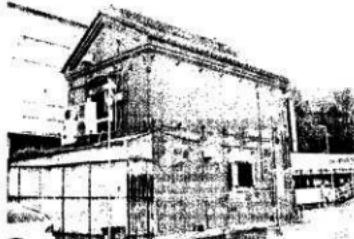
旧奈良製糸所生糸倉庫のキングポストトラス

(3) 旧勝山社煉瓦蔵

所在地	前橋市本町二丁目3-8		
建築年代	明治35年 証拠物件：登記簿		
構造形式	煉瓦造	桁行	8,771 mm
階数	2階建て	梁間	5,130 mm
屋根	日本瓦葺き	床面積	45.00 m ²
基礎	切り石	高さ	約8.4m
煉瓦寸法	215×103×55 mm (平均値)	外部仕上	煉瓦積 (イギリス積)
目地巾	10 mm	内部仕上	床：1階 板張、2階 板張 壁：煉瓦壁表し 天井：垂木、化粧野地板表し
壁厚さ	約1.5本分	扉形式	
大工名	不明		



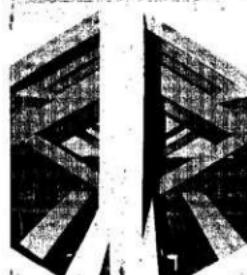
旧勝山社煉瓦蔵（東から）



旧勝山社煉瓦蔵（南西から）



旧勝山社煉瓦蔵 南側の窓



旧勝山社煉瓦蔵のキングポストトラス

III 新登録文化財

旧麻屋呉服店店舗



区分	国登録有形文化財
登録年月日	平成 19 年 5 月 15 日（原簿記載）
所在地	前橋市千代田町二丁目 8-19
所有者	株式会社麻屋
構造、形式及び大きさ	鉄筋コンクリート造地上 3 階地下 1 階建、建築面積 375m ² 、塔屋付
建設年代	昭和 9 年
概要	

旧麻屋呉服店は、昭和 9 年に建造された、現存する市街地唯一の戦前の鉄筋コンクリート造商業施設である。戦中は軍需工場として接收され、戦後の一時期は富士銀行坂支店に使用された後、昭和 24 年より麻屋百貨店として再開し、昭和 40 年頃まで営業していた。昭和 20 年 8 月 5 日の前橋空襲で奇跡的に焼け残ったということ、また麻屋百貨店の記憶として、前橋市民の心に強く残る建物である。

建物は、昭和初期の洋式建築と思えるようなテラコッタ装飾が各部に取り付けられ、抽象化はされているが、太い柱部分の柱頭はイオニア式、窓の方立の柱頭部分はドリス式的な柱頭装飾が付いている。また、バラベット頂部にはコーニスが廻っている。外壁仕上げは、南と東南の 1 階が石張り、2・3 階がタイル貼り、北面及び西面がモルタル塗りである。なお、1 階部分の大半は、近年の改造により覆われている。内部は、1 階部分は改装され、貸し店舗として活用されている。2・3 階は、内装の床・壁が撤去されていて躯体が剥き出しになっているが、柱上部と梁下、天井部分の繰り型、蛇腹、モール等の漆喰塗りはよく残っている。また、鉄製サッシ、窓の額縁は、ほぼ当時のままである。

旧麻屋呉服店店舗は、登録有形文化財登録基準の「一 國土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する。

上毛電気鉄道大胡駅駅舎 他 6 件、上毛電気鉄道荒砥川橋梁

区分	国登録有形文化財		
答申年月日	平成19年3月16日（答申）		
所有者	上毛電気鉄道株式会社		
名称、所在地、構造、形式及び大きさ、建設年代			
名 称	所在地	構造、形式及び大きさ	建設年代
上毛電気鉄道大胡駅駅舎	茂木町41-2	木造平屋建、スレート葺、建築面積53m ²	昭和3年
上毛電気鉄道大胡駅電車庫	茂木町138-1	木造平屋建、スレート葺、建築面積588m ²	昭和3年
上毛電気鉄道大胡駅変電所	茂木町30-2	鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積 166 m ² 、地下室及び石垣付	昭和3年 昭和 18 年増築
上毛電気鉄道大胡駅受電鉄塔	茂木町48-3	鉄骨造、高さ 8.5m	昭和3年
上毛電気鉄道大胡駅避雷鉄塔	茂木町30-2	鉄骨造、高さ 5.0m	昭和3年
上毛電気鉄道大胡駅中継鉄塔	茂木町30-2	鉄骨造、高さ 6.1m	昭和3年
上毛電気鉄道大胡駅引留鉄塔	茂木町30-2	鉄骨造、高さ 6.3m	昭和3年
上毛電気鉄道荒砥川橋梁	茂木町～大胡町	鋼製4連桁橋、橋長47m、コンクリート造 橋脚3基及び橋台2基付	昭和3年 昭和 22 年改良 鋼製桁 3 連は明治 36 年製

概 要

上毛電気鉄道は、前橋と桐生を結ぶ鉄道であり、延長 25.4km を 50 分で結んでいます。昭和 3 年中央前橋 - 西桐生間は営業を開始したが、当初計画されていた大胡 - 伊勢崎一本庄間は資金難のため実現に至らなかった。

大胡駅は当初前橋 - 桐生線、大胡 - 伊勢崎一本庄線の分岐点として建設され、駅舎の他、電車庫、変電所等の施設が集中して作られた。駅舎は当初待合室・小荷物室・出札口・改札口・集札口・湯飲所・宿直室からなっていた。木造平屋建であり、当時の姿をよくとどめている。電車庫は車庫とその北側の事務室・機械室・倉庫・鍛冶場・浴室、南側の食堂・宿直室・電気作業所からなり、木造で小屋組みはキングポストトラスである。変電所・鉄塔は鉄筋コンクリート造平屋建、一部地下室付である。昭和 18 年には空襲に備え、本社機能を大胡へ移転させるため、北側に建物を増築した。変電所に電気を供給する鉄塔も、昭和 3 年当初のものが 4 基残されている。

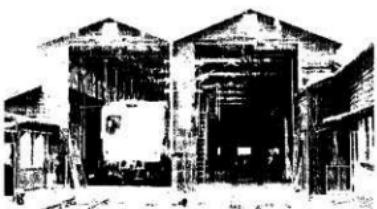
荒砥川橋梁は、当初 2 連の鋼板桁と橋脚 1 基の橋梁であったが、昭和 22 年のカスリン台風により一部が流失した。この際に幅が広がったため、残った鋼板桁 1 基を再利用するとともに他所から明治 36 年製の橋桁 3 連を譲り受け、新たに橋脚を 3 基作り 4 連の橋梁となった。

大胡駅には昭和 3 年開業時の施設が集中して残り、近代鉄道文化財として大変貴重である。上毛電気鉄道の施設としては既に西桐生駅が登録文化財となっており、鉄道文化財を活用した地域活性化にもつながる事が期待できる。

答申のあった物件は、登録有形文化財登録基準の「一 國土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する。



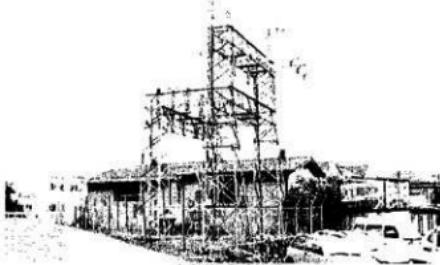
大胡駅駅舎



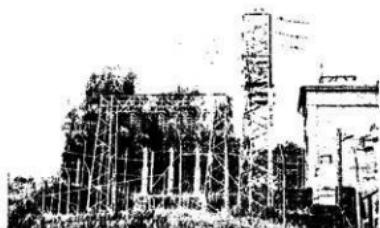
大胡駅車庫



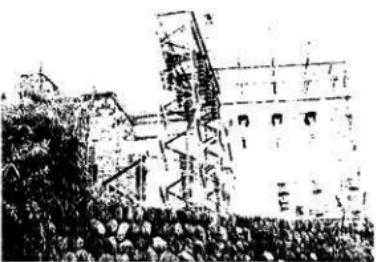
大胡駅変電所



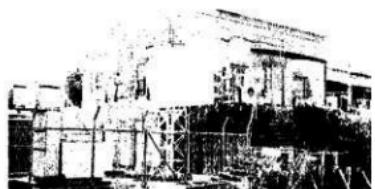
大胡駅避雷塔



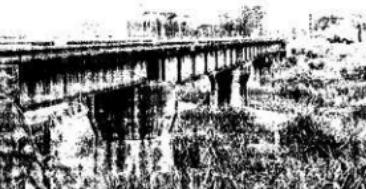
大胡駅避雷鉄塔（左）と大胡駅中繼鉄塔（右）①



大胡駅避雷鉄塔（左）と大胡駅中繼鉄塔（右）②



大胡駅引留鉄塔と大胡駅変電所



鳴瀬川橋梁

IV 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の（總社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の大武敏次氏と瀬沼正次氏を国有文化財監視人として依頼し、日常管理を実施した。また、除草・清掃作業等については、（總社）二子山古墳は地元の總社地区史跡愛存会に、（天川）二子山古墳は前橋市シルバーハウスに業務委託し、実施した。



（總社）二子山古墳除草・清掃作業の様子

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が 16 件、県指定文化財が 54 件、市指定文化財が 226 件あり、合計 297 件の指定文化財がある。

18 年度は、昨年度に引き続き、新市域所在の市指定文化財について、物件の調査及び管理状況等の調査を継続して行った。

また、平成 18 年 10 月 18 日に、文化庁文化財調査官（工芸部門）により鉄造阿弥陀如来坐像（善勝寺 国重文）の鑄の状況及び管理状況の調査が行われた。

指定区分	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	4	40	140	184
史跡	11	11	52	74
無形文化財	0	0	11	11
有形民俗文化財	0	0	6	6
無形民俗文化財	0	2	6	8
天然記念物	1	2	10	13
名勝	0	0	1	1
合計	16	55	226	297
登録有形文化財	18	—	—	18
重要美術品	8	—	—	8

※ 平成 19 年 5 月 15 日付新登録文化財 1 件、

平成 19 年 7 月 31 日付新登録有形文化財 8 件を含む。

① 史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバーハウスセンター及び業者に除草業務並びに樹木処理業務を委託し、史跡等の環境美化に努めた。

作業を実施した箇所は、次の表の通りである。

除草業務一覧表

史跡名	区分	所在地	除草面積
1 龜塚山古墳	市指定	山王町1-28-3	7,452m ²
2 金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	7,221m ²
3 今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624m ²
4 車橋門跡	市指定	大手町2-5-3	1,125m ²
5 天神山古墳	県指定	広瀬町1-27-7	1,460m ²
6 八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	40,000m ²
7 蛇穴山古墳	国指定	總社町總社1587-2	400m ²
8 宝塔山古墳	国指定	總社町總社1606	2,204m ²
9 女塚	国指定	富田・東大寺・二之宮・飯土・井町	60,386m ²
10 不二山古墳	市指定	文京町3-151-6	1,142m ²
11 荒砥原・山古墳	県指定	西大室町813-2他	2,700m ²
12 大胡城跡	県指定	河原浜町660-1 急傾斜地660-31,32	36,318m ² 2,689m ²
計			167,721m ²

樹木等処理業務一覧表

史跡名	区分	所在地	処理内容
1 宝塔山古墳	国指定	總社町總社1606	樹木伐採10本
2 女塚	国指定	飯土・井町 二之宮町	7741本伐採 枯樹伐採集積 約70本ほか
3 總社二子山古墳	国指定	總社町削野368	樹木伐採1本 7741本伐採
4 天川二子山古墳	市指定	文京町3-329-2	樹木伐採3本
5 八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	7741本伐採 樹木伐採3本 樹幹伐倒6本
6 大胡城跡	県指定	河原浜町660-1	樹木伐採3本 枯れ木1本
7 金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	樹木伐採6本 枯れ木5本

②アメリカシロヒトリの防除

前橋市が直接管理する国指定史跡地4ヶ所の桜の樹木等に発生するアメリカシロヒトリの防除を行うために薬剤散布を下記のとおり実施した。

○実施日 1回目:平成18年6月3日(土)

同 6月24日(日)

2回目:平成18年8月3日(木)

○使用薬剤 トレボン乳剤(20%)

○実施した史跡 総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・天川二子山古墳

(3) 文化財の保護

①文化財パトロール

平成18年度より9地区となり、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に1~2回程度文化財保護課に報告され、指定文化財等を管理する上で必要な情報が得られた。また、本年度においては文化財保護指導員研修として下野市を訪問した。各地区的文化財保護指導員は、次の表の通りである。

地区	氏名	住所
中央	福島 守次	天川大島町
総社・清里	関口 淳七	総社町総社
東・元総社	中島 孝雄	石倉町
上川淵・下川淵	狩野 久夫	西善町
南橋・芳賀・桂賀	栗原 秀雄	荒牧町
城 南	岡野 穂	西大室町
大 胡	茂木 允視	掘越町
宮 城	東宮 悅允	苗ヶ島町
柏 川	宮崎 高志	柏川町膳

②文化財防火査察

「文化財防火デー」に係わって、貴重な文化財を火災から守るため、前橋市消防本部及びJR東京電力と協力して、次の文化財査査対象物に対して7班編成で立ち入り合同査査を行った。

○平成19年1月24日(水)

(5) 西消防署:4施設・上野国総社神社本殿他・徳藏寺懸仏・麻木著色両界曼荼羅一対・大徳寺総門・多宝塔・光巖寺薬医門・打敷・油單並びに幡

(1) 中央消防署:6施設

国認定重要美術品3幅・県指定重要文化財12幅・前橋藩松平家奉納装束一式・酒井忠重画像・八幡宮文書

(一巻九通)・臨江閣本館・茶室・別館・典籍前橋藩松平家記録(404冊)他2件

(2) 中央消防署:6施設・神明宮の甲冑・奈良三彩・

東福寺觸口・松平藩主画像他一件・旧蚕業試験場事務棟・上泉郷藏付上泉文書・石造薬師三尊立像

○平成19年1月25日(木)

(3) 東消防署:6施設・旧諫訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対・五十山薬師如来・十二将・大胡神社算額・阿久沢家住宅・十一面觀音木像他・歌舞伎舞台他

(6) 南消防署:8施設・旧闇根家住宅・無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面觀音立像・二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納骨利面・彦泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地・慈照院千手觀音坐像・円満寺薬師如來坐像・駒形牛頭天王の獅子頭一対・旧アメリカンボード宣教師館

(7) 北消防署:3施設・日輪寺の寛永の絵馬・十一面觀音像・前橋藩老小河原左官の甲冑付旗差物・鉄造阿弥陀如來坐像

○平成19年1月26日(金)

(4) 東消防署:5施設・狂歌合の額他・本殿内宮殿・近戸神社御興地・三番叟かじら付属文古書・木造十一面觀音立像 ※滝沢不動明王像の査査については中止。

○防火演習

平成19年1月21日(日)

所在地 前橋市日輪寺町412番地 日輪寺

指定物件 ①群馬県指定重要文化財 十一面觀音像

②前橋市指定重要文化財 寛永の絵馬

担当消防署 前橋市北消防署

③刀剣の手入れ

本市が寄附入した貴重な刀剣を良好な状態で保存するために、専門的な技術を有する業者に刀剣の手入れを委託した。手入れの実施時期と回数は、9月と3月の年2回であった。

なお、刀剣は、温度及び湿度が一定に保たれている施設で保管している。

(4) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

明治45年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として当時の岩神町に建設された建物で、その後製造所は、国の研究機関統廃合のため昭和55年茨城県筑波学園都市に移転した。この建物を国から払い下げを受け敷島公園ばら園内に移築した。この建物は、県重要文化財に指定されているが、建物内に四展示室(①開所当時の様子を示す資料、②はき立てから繭出荷までの養蚕用具、③上州座練器をはじめとして製糸業に用いる道具器械、④機織りや養蚕信仰の資料)を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代史をしのぶ記念館としても活用している。県内外から多くの見学者が訪れている。

開館時は、業務委託している前橋市シルバーパーソナルセンターから4人の職員が派遣され、見学者への対応や清掃などを行っている。

なお、バラ園において平成 20 年 3 月より開催される全国都市緑化フェアのための整備が行われるため、6 月以降は閉館した。

平成 18 年度の開館日数は 40 日（6 月 4 日まで）、来館者数は 2,692 人であった。

（5）総社資料館の管理・活用

平成 18 年度の開館日数は 246 日、来館者数は 5,417 人であった。天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、約 40 の小学校の利用があった。市外から、新規の見学申し込みもあり、周辺市町村にもだいぶ認知されてきた様子が窺えた。

今年度は、2 年に 1 度の秋元歴史まつりの行列の年にあたり、当店は、資料館も多数の見学者で賑わった。今年は、「写真で見る総社の今昔」と題し、説明員が所有していたり、借りてきたりした総社町の古い街並み等が写った写真の展示が行われた。文化財保護課では、例年、出土遺物の展示による協力をしてきたが、今回は、光厳寺調査時に撮影した写真のパネルを作成し、光厳寺所蔵の文化財の紹介を行った。

3 月には、恒例の説明員市外研修を実施した。桐生・足利方面の史跡や指定文化財の見学を通じ、見識を深めた。説明員の要望をふまえた見学先とあって、昨年以上に熱心に研修に取り組む姿が見られた。文化財の活用や復原を中心とした史跡整備等の話も聞くことができ、意義ある研修となつた。

修繕関係では、防鳥工事（コウモリ対策）と西倉の戸車の交換を行つた。昨年度は、夜間、コウモリが北蔵に侵入し、警報装置が、頻繁に作動するということがあつたが、修繕を行つた結果、今年度の作動件数は、0 件であった。また、西倉の戸車が老朽化し、開閉がうまくいかなくなつたため、速やかに交換し、業務に支障を來すことなく対策を終えた。

（6）前橋市柏川歴史民俗資料館の管理・活用

柏川歴史民俗資料館は、新市域となった大胡・宮城・柏川地区、ならびに大室古墳群などを含む市北東部の赤城山南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。

日常管理としては、臨時職員を配置し、来館者への展示の案内、展示物等の管理や清掃を行うとともに、警備保障や定期清掃などについては専門業者に業務委託して実施し、来館者に快適に見学ができるように配慮している。

また、古代生活体験学習の会場や生涯学習課主催のスタンプラリーのポイントとなるなど、児童・生徒の学習の場として利活用している。

平成 18 年度の開館日数は 306 日、来館者数は 2,554 人であった。

（7）前橋市柏川出土文化財管理センターの管理・活用

柏川出土文化財管理センターは、発掘調査により出土した貴重な文化財を収蔵、展示できる施設として、また発掘調査、整理作業等の拠点として維持管理を行うとともに広く利活用を図った。

市民への公開としては、隣接する柏川歴史民俗資料館への見学団体に実際の整理作業の様子を紹介することや、研究者からの考古遺物の調査依頼に対応することを行つた。

日常の管理としては、警備保障や定期清掃などを業務委託により実施し、作業者や見学者の利便性を図つた。

（8）大室公園史跡の管理・活用

整備が完了し一般公開している後二子古墳（石室前レプリカ・石室内・全体模型）、小二子古墳（埴輪等レプリカ）、中二子古墳（中堤埴輪列）、前二子古墳（石室内）について、これらの史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選任して、大室古墳群の史跡管理業務を委託している。

業務実施日は以下のとおりである。

4 月から 11 月まで：月曜日を除く毎日

12 月から 3 月まで：土・日・祝日

石室鍵開け午前 9:00

石室鍵閉め午後 4:00

※点検・清掃は石室開閉時に実施している。

なお、史跡を保護し、県内外から訪れる見学者に快適な環境を提供するために行つて古墳群の史跡除草は、平成 17 年度から前橋市公園管理事務所に事務が移管された。

（9）大室公園民家園の管理・活用

民家園は、民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。平成 18 年度の開館日数は 246 日、民家園来園者数は記帳者だけでも 6,175 名となつている。

活動状況としては、前年同様南側の畑で地元の大室小学校の児童と民家保存会の会員とで除草、サツマイモ植え、その収穫やサルビア植え、コスモス植え等、地域に根ざした活動を行つてゐる。

また、民家園保全修理として穀箱屋根及び堅穴式住居の屋根修理を行つた。

2 整備事業

(1) 前橋市史跡整備委員会

現在、前橋市内には公有化が進み、整備を進める必要が生じている国指定史跡や、整備を必要としている重要な史跡が数多く残されている。

これらの史跡について、現状把握を行いながら、今後整備を進めていく上での問題点を洗い出し、各専門分野からの意見を参考にして史跡整備に向けた基本方針を立てるため、新たに、全市域を対象とした「前橋市史跡整備委員会」を設立した。

①委員会等

委員長 阿久津 宗二、副委員長 能登 健、
委員 右島 和夫、飯森 康広、小島 敏子、
顧問 嶋岸 純夫
指導(調査官) 小野 健吉、白崎 恵介
幹事 財政部長、都市計画部長、建設部長、
管理部長、總務課長

②第1回前橋市史跡整備委員会

開催日時 平成 18年 9月 1日 (金)
午後 1時 30分～3時 30分

開催場所 市庁舎 11階南会議室

報告及び協議

- ・前橋市史跡整備委員会の設立経緯及び目的について
- ・対象となる史跡の現状と課題について
女堀、八幡山古墳、(天川)二子山古墳、
総社古墳群、大胡城跡、膳城跡

(2) 臨江閣茶室及び別館の保存修理に伴う調査設計委託

全国都市緑化ぐんまフェア開催(H20. 3. 29～6. 8)にあたり、臨江閣別館を会場の一部として利用するため、建物内部の化粧直し、補修及び改修を行うとともに文化財としての保存修理を併せて実施することにした。

保存修理は、会場利用が見込まれる別館と既にシロアリ被害が確認されていた茶室を対象とし、修復箇所や修理方法を決定するため、文化財建造物の専門機関へ建物全体の調査設計を委託した。

① 専門機関による文化財調査及び設計

受託者 財団法人 文化財建造物保存技術協会
委託期間 平成 18年 8月 21日から
平成 18年 12月 28日まで

② 臨江閣別館の主な修理予定箇所

屋根の修復、玄関東西角土台・根太の補修、
男子トイレ土台の補修、玄関東壁面の補修、
その他木部の補修(戸袋、1階一筋敷居、2階腰

羽目板、細部・見隠れ腐朽部補修)、基壇石積直し、
葛石積直し、軒・縁下叩きの補修、
渡廊下鋼板屋根全面葺き替え、渡廊下土台・腰壁
補修、渡廊下化粧軒裏補修、漆喰壁補修、漆喰塗
料塗布(2階外部小壁以外)、雨樋解体・清掃・補
修・復旧(渡廊下)、雨樋先端延長(渡廊下:直管、
別館:L型)、洋間カーペット敷き(新規)、
縁側・廊下カーペット更新、畳の表替え(1階のみ)、
建具補修、建込み調整(便所廻りと雨戸以外
全て)、土壤防蟻処理(軒・縁下叩き部分)

女子トイレの改修(現状変更)

③ 臨江閣茶室の主な修理予定箇所

シロアリ被害のあった書院末の間周辺、床下腐朽部及び土台等の修理、不具合のあった書院南面戸袋及び茶席南面戸袋の修理、屋根瓦及び目地漆喰の修理、東側板壁のはらみだし部修理、障子、襖の張替及び板戸補修、畳の表替え、その他土壁、漆喰の部分補修等、消防用報知設備目隠しカバーの設置

(3) 市内指定史跡等の整備

柏原町膳に所在する県指定史跡膳城跡は、武田氏による「素肌攻め」の伝説や、堀の残存状態がよいことなどで知られている。

今後の保存・活用に必要な整備事業等を実施する基礎的な資料を得るために、平面測量を実施することとした。今年度は袋曲輪部分の測量を専門業者に委託して実施した。時期は平成 19年 2～3月、成果品は1/500 平面図他である。

(4) 文化財標柱・説明板の書き換え

平成 16年の市町村合併に伴い、旧町村名で表示されている標柱・説明板等の表示訂正や修理を実施した。また旧市内の標柱についても著しく劣化したものの修理を実施した。今年度の状況を以下に示す。

① 宮城地区文化財標柱・説明板等書替工事

標柱全面書き替え	31 件
標柱文字修正	2 件
説明板文字修正	6 件
案内板文字修正	2 件

② 旧市内文化財標柱書替工事

標柱全面書き替え	6 件
----------	-----

宮城地区標柱説明板等書替工事一覧

区分	指 定 物 件 名	所 在 地	修正区分	修 正 内 容
国重文 阿久沢家住宅	柏倉町604	説文	宮城村→前橋市(1箇所)	
県災然 三夜沢赤城神社のたわらスギ	三夜沢町114 赤城神社	説文	宮城村→前橋市(1箇所)・本文書き換え(1箇所)	
市重文 丸山の碑	柏倉町226-2	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 世良田薬師の阿弥陀像	大前田町542-1	標全・説文	【標】銷落とし、銷止め及び全面書き換え。【説】宮城村→前橋市(2箇所)・本文書き換え(1箇所)	
市重文 三夜沢真鍋田家地蔵尊	三夜沢町107-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 赤城神社境内神代文字の碑	三夜沢町114 赤城神社	標全・説文	【標】銷落とし、銷止め及び全面書き換え 【説】宮城村→前橋市(2箇所)	
市重文 坂石塔群	柏倉町582	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 凝灰岩石仏	柏倉町1428-1 東昌寺	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 凝灰岩石仏	柏倉町1940	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 石燈	三夜沢町19	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 五輪塔	三夜沢町191	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 石燈	三夜沢町191	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 赤城塔	三夜沢町114 赤城神社	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 道祖神	柏倉町1321-3	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 あ・うん石仏	馬場町29-1 稲荷神社	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 馬頭観世音菩薩	馬場町29-1 稲荷神社	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 古屋敷古墳	馬場町458	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 仮牌、凝灰岩石仏	馬場町459-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 石燈	馬場町402-8	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 宮城流算額	市之闇町665 住吉神社	標文	宮城村→前橋市(3箇所)	
市重文 狂歌合わせの額				
市重文 馬頭観世音菩薩	柏倉町1023-1 踏跡神社	標文	宮城村→前橋市(2箇所)	
市重文 凝灰岩薬師石仏	大前田町380-1	標全	全面書き換え	
市重文 大前田地蔵菩薩石像	大前田町1738-1	標全	全面書き換え	
市史跡 供養塚	市之闇町167-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 馬頭観音の塔	馬場町67-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 馬場の大鐘錠	馬場町56-2	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 新山古墳	馬場町104-3	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 市之闇鶴文崩廻遊跡	市之闇町353-2鶴	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 柏倉殿磐戸岩跡	柏倉町1412-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 大前田栄五郎の墓	大前田町1785-7	標全・説文・案全	【標】銷落とし、銷止め及び全面書き換え 【説】宮城村→前橋市(2箇所)・本文書き換え(1箇所)【案・2本】銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 大前田内出居岩跡	大前田町1328-1他	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え、埋め直し	
市史跡 小池文七郎の墓	市之闇町728	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 興廢	柏倉町902	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市無文 三夜沢赤城神社太々神來	三夜沢町114 赤城神社	標全	全面書き換え	
市無文 大前田御厨神社の獅子舞	大前田町816 踏跡神社	標全	全面書き換え	
市天然 三夜沢のブナ	三夜沢町354-1	標全・説文	【標】銷落とし、銷止め及び全面書き換え 【説】村指定→市指定(1箇所)・宮城村→消去(1箇所)・宮城村→前橋市(1箇所)	
		標全(標柱全面修正)	31	
		標文(標柱文字修正)	2	
		説文(説明板文字修正)	6	
		案全(案内板全面修正)	2	

旧市内標柱書替工事一覧

区分	指 定 物 件 名	所 在 地	修正区分	修 正 内 容
市重文 カロウ石山古墳石棺	三河町二丁目1-3 中川小学校	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 東覚寺塔塔	純社町社1607 光慶寺	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 二宮赤城神社の宝塔	二之宮町886 二宮赤城神社	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市重文 小鳥田の阿弥陀如来坐像	小鳥田町404-1	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市史跡 本城氏の墓 三基	紅葉町一丁目9-14 長昌寺	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
市無文 片貝神社太々神來	東平貝町464-1 片貝神社	標全	銷落とし、銷止め及び全面書き換え	
		標全(標柱全面修正)	6	

3 普及事業

(1) 第32回前橋市文化財展

- ・テーマ いにしえのロマンを訪ねて『山王庵寺～塑像にこめられた想い～』
- ・期間 平成18年11月4日(土)～11月16日(木)
- ・会場 桂萱公民館、総社小学校、元総社中学校、元総社北小学校、市立前橋高等学校、上川淵公民館、中央公民館、東公民館、本庁1階市民ロビー、文化財保護課

今年度から5ヵ年計画で山王庵寺範囲内容確認調査が始まった。この山王庵寺は、全国的にみても歴史的価値の高い古代寺院であり、地域の文化・歴史にとって重要である。今回、この重要な山王庵寺の遺跡に焦点をあて文化財展を開催した。従来の受動的な文化財展から大きく脱却し、市民の方が見に行けるところにこちらから移動して、積極的に説明する能動的な文化財展を実施したことで、多くの市民に文化財展への興味・関心を喚起することができた。入場者数は2,120名。



市立前橋高等学校での様子（移動文化財展）

(2) 第25回文化財講演会・市有バスで現地見学会

文化財展開催期間中に、第25回文化財講演会並びに市有バスで現地見学会を開催した。

①第25回文化財講演会

- ・日時 11月11日(土)午後2時～4時まで
- ・内容 『山王庵寺発掘調査これまで・これから』
- ・講師 栗原 和彦氏
(元九州歴史資料館参考)
- ・会場 前橋市中央公民館 第3学習室
- ・受講者数 57名

②市有バスで現地見学会

- ・日時 11月13日(月)
午前の部：午前9時30分～12時
午後の部：午後1時～3時30分
- ・内容 山王庵寺範囲内容確認調査現場並びに日枝神社周辺の見学

・講師 栗原 和彦氏

池田主事、綿貫嘱託員(本課職員)

・参加者数 35人(午前)、32人(午後)

・受講者数 57名



文化財講演会の様子

(3) 第34回前橋市郷土芸能大会

- ・日時 平成18年11月18日(土)
- ・会場 前橋市民文化会館 小ホール

今年度から、より一層の文化交流を目的とし、周辺市町村から1团体を招待し、連携選出の5团体と合わせ、計6团体による公演が行われた。今回は、高崎市市長公室文化課に出演团体の推薦を依頼(5月)し、飯塚町獅子舞保存会にご公演いただいた。また、より多くの方に会場に足を運んでいただききっかけになればと考え、抽選会を実施した。前橋観光コンベンション協会から、景品を提供してもらえる可能性のある企業・団体を紹介してもらい、個別に依頼してまわった結果、15の企業・団体に協賛いただくことができた。例年、公演が終わりに近づくにつれ、観客が減少するといった傾向があったが、今年は、最後まで多数の観客が公演を鑑賞し、抽選会の効果は十分にあったと考えられる。

抽選会は、予定通りの時間で終了したが、各団体の公演時間が伸び、大会の終了时刻を大幅に超過してしまった。幕間の短縮と所定時間の厳守の徹底が、次年度の課題として残った。

第34回 前橋市郷土芸能大会



飯塚獅子舞公演の様子

《山演团体一覧》

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
下長磯操翁式三番叟	下長磯操翁式三番叟保存会	下長磯町
大友町祭り囃子	大友町祭囃子保存会	大友町
和讃舞踊	西光寺和讃会・極楽寺和讃会	上佐島・亀里町
飯塚獅子舞	飯塚町獅子舞保存会	高崎市飯塚町
二宮赤城神社太々神樂・子供神樂	二之宮町無形文化財保存会	二之宮町
上泉の獅子舞	上泉獅子舞保存会	上泉町

(4) 文化財普及啓発

①文化財探訪

この事業は、市内にある文化財や郷土芸能等を市民の皆様に広く知っていただくことを目的に、平成15年度より開始した事業である。平成18年度は、7月、11月、3月に実施した。

(第1回目)

日 時：7月10日（月）13時30分～16時50分

講 師：文化財保護指導員 関口淳七氏

参加者：37名

コース：総社・清里地区

光嚴寺（薬医門・力田造愛碑等）→元景寺（秋元氏墓地等）→総社二子山古墳→愛宕山古墳→正法寺（六地蔵石幢等）→山王庵寺

（第2回目）

日 時：11月7日（火）13時30分～16時50分

講 師：文化財保護指導員 茂木允視氏

参加者：36名

コース：大胡地区

五十山薬師如来・十二神将→長善時（大胡太郎の墓石）→養林寺（牧野家の墓石）→大胡神社→大胡城跡

（第3回目）

日 時：3月7日（水）13時30分～16時45分

講 師：文化財保護指導員 宮崎高志氏

参加者：39名

コース：粕川地区

白山神社→秀五郎稱荷→鶴姫の墓（丸山靈園内）
七つ石（雷電社）→八坂神社（神代文字石碑）
→西福寺石造物群→三ヶ尻赤城塔→三ヶ尻双体道祖神

②ふるさと円発見～歴史とロマンを訪ねて

市内にある文化財等を巡り、それにつながる伝説を紹介することにより、文化財を身近に感じてもらうことを目的として、本事業を実施した。幅広い年代の方に参加してもらえるよう、休日の開催とした。

日 時：平成18年10月22日（日）

午後1時10分～午後4時30分

コース：飛石稻荷→お艶が岩→大渡橋→宝塔山古墳→蛇穴山古墳→元景寺

参加者：19名



元景寺見学の様子

③龍海院逍遙

・名 称 『龍海院逍遙～琴の調べに乗せて～』

・日 時 平成18年11月26日（日）

午前9時30分～12時

・会 場 龍海院 前橋市紅葉町2-8-15

・内 容 ①琴の演奏（桐の音会）

②龍海院外一雄住職の講話

③前橋藩主酒井氏歴代墓地等の見学

・参加者数 78人

今回のイベントは「龍海院逍遙～琴の調べに乗せて～」と題して桐の音会の琴の演奏「秋の曲」と「秋の言葉の葉」（2曲）、「龍海院について」住職の講話、駒倉課長による前橋藩主酒井氏歴代墓地等の説明を実施し、龍海院にはとても貴重な文化財がたくさんあることを市民の方々に周知でき、好評を得た。



前橋藩主酒井氏歴代墓地の説明の様子

④山根授業「おもしろ文化財教室」

平成 17 年度の実施開始以来、好評を得ている事業である。

学校からの依頼を受けて、文化財保護課職員が現地や学校へ出向き、先生方と協力しながら学習を進めた。また、児童・生徒が文化財保護課へ来て学習したいという要望もこれまで多く寄せられていたことから、このような学習にも対応した。

《18 年度に実施した山根授業》

実施日	学校名 学年	実施内容（実施場所）
4/18	月田小6年	歴史導入（柏川資料館及び鷲城）
4/27	荒牧小みやま分校6年	土器の変遷（学校）
5/8	附属小5年	臨江閣（現地）
5/19	伊勢崎宮郷第二小4年	大室古墳群（現地）
5/24	宮城中1年	大室古墳群（現地）
5/25	柏川小6年	大室古墳群（現地）
6/8	芳賀小6年	土器作り（学校） 埴輪作り（学校）
6/15	附属小5年	前橋の歴史（保護課） 大室古墳群（現地） 臨江閣（現地）
6/16	中央小6年	火おこし体験（学校）
6/20	筑井小6年	勾玉作り（学校）
6/22	柏川小4年	昔のくらし（柏川資料館）
6/23	かがやき	勾玉作り（学校）
7/1	大利根小（PTA）	勾玉作り（学校）
10/11	元総社中 (希望者)	山王廃寺（現地）
10/12	附属小4年	町PR（保護課）
10/4	大胡東小	昔の道具（柏川資料館）
11/30	はばたき	勾玉作り（学校）

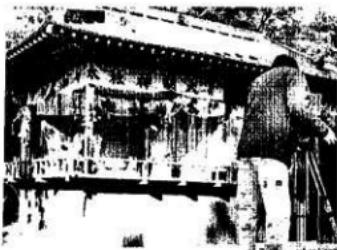
⑤夏休みは古墳へGO！

児童・生徒及び一般市民に、市内に残る貴重な古墳の存在を知ってもらい、文化財に対する興味・関心を喚起することを目的に、本事業を実施した。

夏休み期間中に、市内3箇所の古墳の写真（古墳と自分の姿と一緒に写っているもの）を撮り、所定の台紙に貼付し、古墳の名称と所在地（町名）を記入したものを受け取った。延べ約70名の応募があった。提出者全員に記念品を贈呈すると共に、本人から許可を得られたものについては、個人情報を保護した上で、市民ロビーにて展示した。

⑥郷土芸能映像記録保存（DVD作成）

郷土芸能映像記録保存事業は、平成8年度から始まり、昨年度までに10芸能の撮影を行った。そして、各保存会員が高齢化しているという状況をふまえ、今年度から、2芸能の映像記録保存事業を実施し、11月11日（土）に春日神社太々神楽、11月25日（土）に大胡神社太々神楽（太々神楽の舞）の撮影を行った。



大胡神社太々神楽（太々神楽の舞）の撮影

⑦文化財マップ・パンフレットの作成

○市域が拡大した本市に所在する指定文化財については、より多くの市民に情報を提供することで理解や愛着を高めていく必要がある。そこで旧来の「まえばし文化財地図」（昭和57年初版）に代わるものとして「前橋市文化財マップ」を作成した。

この地図は実用性を重視し、原図に市販の都市地図を使用、新市域を含めた指定文化財等を一覧できる以外にも関連する観光地の情報も掲載したものである。来年度当初には市内の公共施設や学校等へ配布するとともに、本課にて一部200円で販売をする。

なお、この地図には20の企業等からの有料広告を掲載させていただいている。

○旧市内を6地区に分けた文化財めぐりパンフレットについて、「総社・清里」、「中央・南橋」、「城南」の3地区を増刷した。



前橋市文化財マップ

⑥文化財資料の貸出

各種公共機関や新聞社・企業等より依頼を受け、写真資料等の貸し出しを行った。主な貸し出し資料と貸し出し先は、以下の通りである。

貸し出し資料	貸し出し先
県・市指定郷土芸能映像記録 保存事業ビデオ (野良人獅子舞・上泉の獅子舞)	高崎市文化課
酒井重忠画像	上毛新聞社出版局
旧利根橋の飾り等(撮影)	日本工業経済新聞社前橋支局
県・市指定郷土芸能映像記録 保存事業ビデオ (純社神社太々神楽・片貝神社 太々神楽・産泰神社太々神樂)	上佐島町自治会
酒井重忠画像・松平直克画像	群馬県立歴史博物館
火おこし道具	前橋市立若宮小学校
旧糸試験場事務棟の画像	日本工業新聞社前橋支局
須藤泰一郎の写真(柏川 歴史民俗資料館所蔵)	郷土出版社
八幡山古墳航空写真	山川出版社
天狗岩用水画像	クリエイティブスタジオ六花
櫛石(画像)櫛石出土遺物(ポジフィルム)	上毛新聞社出版局
前橋城関連ポジフィルム	県埋蔵文化財調査事業団
滝沢不動明王像・ヘル(柏川歴史民俗資料館所蔵)	館林市市史編纂センター

⑦各種講座・文化財めぐりへの講師派遣

本市に所在する指定文化財や調査された遺跡などについて、市民が理解を深められるよう、本課職員や各資料館解説員等が説明・案内を行った。市内の自治会や歴史愛好団体からの依頼が主であった。

○講師派遣

- ・対応団体数 25 団体
- ・参加者のべ人数 793 人
- ・説明、案内箇所等
大室古墳群 10 回 総社資料館 5 回
柏川歴史民俗資料館 6 回 山王庵寺 2 回
蒼海遺跡、大胡城、女渕城、膳城、山王庵寺、二宮赤城神社、産泰神社、女堀、大胡シャンテ(考古遺物展示) 各 1 回
市内の古墳の説明(講師 井上唯雄氏)、松平氏関連史跡の見学(講師 福田紀雄氏)、下川瀬地区的寺社等の見学 各 1 回

○出前講座(生涯学習課事業)

本課として 3 つの講座を設定した。それぞれの概要は以下のとおりである。

・「赤城南麓の大豪族の栄華・大室古墳群」

2 団体 80 名

・「よみがえる白鳳の寺・山王庵寺」

2 団体 100 名

・「文化財のあらましと保護行政」

今年度は依頼なし

(5) 古代生活体験学習

本事業は、子供たちが楽しみながら古代生活に関する体験することで郷土の文化財への意識を高められるようにすることを目的としている。対象は小学 4 年生から中学 3 年生である。今年度の概要は以下のとおりである。

○主な方針

- ・より広い学校区からの参加があるよう、本課二施設のほか、新市域や市内南東部に会場を設定した。
- ・参加者が古代人の知恵や願いを追体験できるとともに作品の形や模様が工夫できるよう、“大昔の人のように夢や願いを込めてつくろう”、“世界につつだけの〇〇をつくろう”的 2 点を提示し、作業前の学習や作り方の指導を充実させた。
- ・参加者が文化財に対する理解をより深められるように、資料館や史跡の見学、史跡に関するクイズ等を取り入れた。

○実施内容

回	日時・会場	内 容	参加数
1	6月 24 日(土) 9:30~12:15 柏川歴史民俗資料館、出土文化財管理センター	・縄文土器づくり ・資料館見学	57 人 (保護者 15 人含む)
2	7月 22 日(土) 9:45~12:30 大胡城跡	・勾玉づくり ・大胡城クイズ (大胡城跡見学)	57 人 (保護者 12 人含む)
3	9月 2 日(土) 9:30~12:30 下川瀬公民館	・勾玉づくり ・天神山古墳クイズ(出土遺物見学)	66 人 (保護者 10 人含む)
4	10月 28 日(土) 9:30~12:15 総社資料館	・ハート形土偶づくり ・資料館見学	18 人 (保護者 4 人含む)

・参加者アンケートには「楽しくできた」「昔の人はいろいろ工夫している」など本事業の目的にせまる内容が多くあった。全会に参加した子供もいた。

・第 1 回、第 4 回については学校の長期休業期中、各会場に作品を展示した。入館者はそれぞれ 315 名、64 名であった。

(6) た・ん・け・ん大室古墳群

1 行事の概要

① 事業の趣旨

平成 9 年度から平成 16 年度の 8 年間をかけた大室古墳群の整備は平成 17 年度の前二子古墳石室公開記念行事で一段落したところであるが、大室公園も含め、今後は、施設の有効活用が望まれるところである。

今回のイベントは、爽やかな風わたる初夏の大室公園を満喫してもらうと共に、併せて歴史遺産の活用促進と文化財の愛護精神の高揚を図ることを目的に、古墳めぐりスタンプラリー、古墳説明会、古代体験イベント（勾玉作り、火おこし）、鳥・犬キーホルダー及び木札作り、大室古墳群出土埴輪等の展示、八木節等のイベントを開催した。多くの来場者があり、盛大に実施することができた。

② 開催期日

平成 18 年 5 月 28 日（日）

③ 開催会場

大室古墳群一帯および民家園など

④ 運営体制

主催 前橋市・前橋市教育委員会

2 行事の内容及び来場・参加者数等

No.	イ ベ ン ト 名	会 場	参 加 者 数
1	スタンプラリー	各 6 会場	475 人
2	古墳説明	各 4 古墳	約 200 人
3	木札づくり	民家園（庭）	130 人
4	勾玉づくり	民家園主屋	65 人
5	鳥・犬キーホルダーづくり	民家園主屋	109 人
6	火おこし	民家園（庭）	70 人
7	火おこし大会	民家園（庭）	17 人
8	大室古墳群出土遺物展示	民家園離れ	475 人
9	八木節	前二子古墳	約 300 人
イベント全体参加者数（推定）			700 人



スタンプラリーの様子

(7) 前二子古墳石室復元市民プロジェクト

国指定史跡の前二子古墳の石室を市民の手で発掘当時 1878 年の状態に復元するプロジェクトを企画。プロジェクトは 3 年計画。1 年次の今年は土器、2 年次は金属製品（杏葉、鏡板）、3 年次は装身具の制作に取り組む。

8 月 2 日 前二子古墳石室復元市民プロジェクト実行委員会総会・委嘱式（委員 10 名、監事 1 名、顧問 3 名）

8 月 26 日～28 日 職員試作須恵器焼成（一心窯）

9 月 1 日～9 月 25 日 広報まえだし、新聞、ホームページ等で土器制作ボランティアの募集

・45 名の応募の中から抽選で 35 名採用

10 月 7 日 大室古墳の見学会並びにオリエンテーション

10 月 21 日～11 月 2 日 土器制作ワークショップ

・会場：総合福祉会館 造形創作室

・土器制作数：須恵器 60 点、土師器 35 点

12 月 2 日～4 日 窯焼き（須恵器）、覆い焼き（土師器）

2 月 17 日 14:00～16:00 土器制作完成記念考古学講演会

・会場：総合福祉会館 多目的ホール

・講師：白石太一郎氏（奈良大学教授）

・テーマ「前二子古墳の石室と副葬品」

・受講者数 170 名

2 月 21 日～28 日 須恵器・土師器制作作品の展示

・会場：市役所 1 階 市民ロビー

《平成 19 年度》

5 月 27 日 須恵器・土師器制作作品を前二子古墳石室に収納し、一般公開を開始。

※延べ参加者数 750 名



土器制作に取り組む山心ボランティア

(8) 大室古墳群市民ボランティア解説員の育成

整備事業の終了した大室古墳群（大室公園内・国指定史跡）については、市内にある大変貴重な文化財として多くの市民が身近に感じ理解を深めていくことが必要である。そこで、同古墳群整備の関係者である井上唯雄氏（市文化財調査委員）を指導者に迎え、市民ボランティア解説員（以下、解説員）を養成することとした。本年度の活動内容の概要を以下に示す。

<古墳見学会>

○計4回実施（4月下旬～8月下旬）。

○井上氏を講師とし、近隣住民や児童・生徒に大室古墳群を知つてもらうとともに、ボランティア解説員希望者を募つた。

○ボランティア解説員は、井上氏を含め7名となつた。

<市民ボランティア解説員による大室古墳群見学会>

○10月22日（土）9：30～15：00

○事前に2回の研修会を実施した。内容は、古墳群の具体的な解説の仕方の研修、本課職員が実際に説明する様子の見学等である。

○当日は解説員が民家園に待機し、見学者を随時案内した。見学コースは、前二子古墳中二子古墳全体模型後二子古墳小二子古墳の順であり、所要時間は約1時間である。見学者は90名を超えた。

○地元団体による茶席も設けた。入場者は55名を数えた。

<第2回 市民ボランティア解説員による大室古墳群見学会>

○11月19日（土）9：30～12：30

解説員からの発案で実施することとなった。

○解説員は南駐車場の古墳案内板前に待機し、5回の時間を設けて古墳を案内した。雨天にも拘らず見学者は35名を数えた。

<解説員研修>

○3回実施（12月～3月）

○市内外の古墳群や資料館、博物館等を見学し、解説員の案内・説明活動に役立てるようにした。

<その他>

○団体からの要請で古墳群案内を1回行った。

○会員も8名に増えた。

解説員が行った古墳の解説・案内については、「解説員の説明がわかりやすく、親切だった」「文化財は難しいと感じていたが、身近に思えるようになった」「何も知らないで大室公園に来ていって、見方が変わった」などの感想が多の見学者から聞かれた。

なお、解説員の会の名称については、解説員の総意により「大室 古墳（つか）の語り部」に決定した。

(9) 文化財保存用具体助成補助

①文化財保存用具への補助

総社地区に残る文化財の説明版や標注の設置を継続的に行っている団体、市内の各種の郷土芸能保存会が加盟し、文化の振興に尽力している団体、大胡・宮城・船川支所管内指定郷土芸能団体（平成18年度で交付終了）に補助金を交付した。また、市指定史跡の墓地内にある杉の樹勢が衰えたため、見学者の安全と史跡の保護を図るために、専門家による杉治原工事に対して、補助金による助成を行つた。交付対象団体は、以下の通りである。

- ・総社地区史跡愛存会
- ・前橋市郷土芸能連絡協議会
- ・足軽町太々神楽保存会（大胡地区）
- ・赤城神社太々神楽保存会（宮城地区）
- ・大前田獅子舞保存会（宮城地区）
- ・月田獅子舞保存会（船川地区）
- ・込戸三番叟保存会（船川地区）
- ・御靈神社太々神楽保存会（船川地区）
- ・宗教法人 龍海院

②市指定重要文化財「阿久澤家住宅」保存・管理への補助

国指定重要文化財「阿久澤家住宅」の保存・管理について、所有者に対し、群馬県より文化財保存事業費として補助金が交付されている。これを受けて、前橋市も、前橋市文化財保存事業費補助金交付要項の中の「県が保存の必要を認める文化財」であるという記述に基づき、補助金を交付した。なお、補助対象となる業務は、消防設備点検業務および清掃業務である。

(10) 職場体験学習

今年度は、市内5校の生徒を受け入れた。昨年度までは、1日のみの実施であったが、学校からの要望を受け、2～3日間の職場体験学習にも対応した。実施概要は、以下の通りである。

月 日	学校名・学年・人数	実施場所
7月 12日～14日	創世中等教育学校 2年生1人	元總社若海道跡群(8)
9月 7日	鎌倉中学校 2年生4人	元總社若海道跡群(12)
9月 7日～8日	木瀬中学校 2年生1人	元總社若海道跡群(11)
10月 5日	第一中学校 2年生3人	元總社若海道跡群(11)
10月 5日	広瀬中学校 2年生2人	山王庵寺道跡調査区

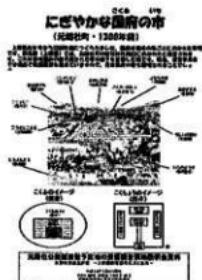
(11) 遺跡現地説明会

①元総社公民館建設用地

- ・日時 平成18年7月8日
午前10時～午後3時
- ・場所 前橋市元総社町3丁目1-1ほか
(元総社公民館建設用地発掘調査現場)
- ・来場者数 約150名
- ・内容 元総社公民館建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査により検出された古墳時代後期から10・11世紀の堅穴住居から成る集落跡、および大型掘立柱建物跡、国府北側を区画すると推定される大溝の検出状況を、発掘調査中の現地で速報的に紹介すると併に、これまで国府城の発掘調査により出土した遺物を展示して説明を行った。

- ・成果 平成13年度より実施している元総社着海遺跡群の発掘調査において、現地説明会を開催するのは今回が初めてであった。これまでの元総社着海遺跡群の調査では、狭小な調査区や、時間的な制約のため困難であったが、調査成果を現地で生の状態で公開し、理解を求めるることは当然の責務であり課題でもあった。また、地元からの要望もあり、現地説明会の開催は、元総社公民館建設用地発掘調査の目的の一つでもあった。

幸いにも発掘調査では、集落跡・大型掘立柱建物跡・古代の大溝など、好資料・新知見に恵まれ、速報性および話題性に絶好の材料を持って現地説明会を開催することができた。ただ、残念なことは、駐車場の確保が困難であるため、元総社地区周辺にしか積極的な広報活動ができなかったことである。それでも、着海遺跡群発掘調査に対する地元の理解と文化財保護精神の涵養を求めることが当初の目的の一つであったことを考えれば、来場者数150名は目的を達成するに充分な数字であったと考えられる。



②山王廃寺

- ・日時 平成18年11月23日(木)
午前10時～午後3時
- ・場所 前橋市山王町2434-1ほか
(山王廃寺範囲内確認調査現場)

- ・来場者数 222名
- ・内容 今年度から調査を開始した山王廃寺発掘調査現場において、講堂や回廊の調査状況や出土した遺物の展示、また、日枝神社境内にある塔基礎や根巻石、石製鷲尾などの説明を行った。それらの解説ポイントを約1時間程度かけて順次解説を行なながら巡った。

- ・成果 発掘調査の成果をいち早く、市民の方々に還元するための現地説明会であったが、地元の方をはじめ、市内外から多くの来場者がおり、大きな成果を上げることができた。また、「より分かり易く」をテーマに、視覚的な観点(講堂や回廊の位置の想定ラインの明示、3D画像)を取り入れた解説や展示を行なったことで、山王廃寺が貴重な文化財であることを周知できた。

来場者の方々から現地説明会を終えての質問や疑問、普段感じている文化財に対する想いを直接耳にすることができ、市民と行政のよい意見交換の場となった。今後も定期的な発掘調査現地説明会や発掘調査速報紙の開催など、積極的に調査成果の還元を図り、地域の文化財や歴史についての関心を高めていく必要がある。

また、今回は小中学生の来場者数が少なかつたため、今後は広報の仕方や現地説明会の内容等を工夫し、子供たちが「楽しめる」現地説明会にしていくことも課題である。



元総社公民館建設用地現地説明会パンフレット

山王廃寺現地説明会パンフレット

4 埼玉文化財発掘調査事業

平成18年度の発掘調査事業を振りかえって

(1) 発掘調査事業

詳細は一覧表に記載した通りである。調査体制は直営事業が2名1組、4班体制であり、他に民間発掘調査機関を導入した。調査事業件数12、このうち直営8、委託4であった。総調査面積21,408m²であり、直営14,198m²、委託7,210m²であった。

○山王廃寺

特筆すべき調査として山王廃寺の範囲確認事業をあげることができる。平成12年度に山王廃寺等調査委員会を発足させ、毎年委員会を開催してきたが、なかなか現地調査への移行がなされなかった。満を持した平成18年度から平成22年度の5カ年事業としてようやく現地調査の目途がついた。

初年度である平成18年度の調査は、講堂と回廊、北限の区画施設を解明する目的で調査を開始した。

その結果、①講堂…平成9年度の成果を下敷きに調査区を設定した結果、掘り込み地形の範囲が東西30m、南北23mとなりことがわかった。②回廊…柱を据えた礎石模石部を3カ所検出でき講堂に接続することも判明した。③北限の区画施設…從来、食堂あるいは僧坊と呼称していた施設を見なおし「北方建物跡」と改称し、この建物跡と同じ軸方向をとる区画溝を検出した。北限を画す施設の可能性が大きいとされるが、平成9年度に検出された南限を画すものと推定された築地塀跡と格差が生じた。南限を画す築地塀の補強調査を踏まえた結果を得たねばならないことに異論はないが、区画溝の更なる追求が必要とされる。

出土品として新たに瓦製の鶴尾、素紋鬼瓦、新種の軒瓦が発見された。特に鶴尾は、存在の知られている石製鶴尾に加え瓦製鶴尾が追加され、山王廃寺の内容を彩るものとなった。

今回の調査から、從来までの塔心礎を基準とした磁北1mのグリッドから公共座標を用いた4mグリッドに変更した。それは市域全体をカバーする調査区設定に沿つたものである。また、山王廃寺の南方に広がる上野国府閑道跡である蒼海遺跡群の調査との整合性を図るためにも必須であった。

また、昭和の1~7次調査、平成9~11年度の成果図の集成作業を開始した。規定の割合の基で縮尺1/50で全ての成果図の作成を進めている。その結果、今回検出された講堂に接続する回廊が第2次、第3次調査成果の「礎石群B」であることが判明した。集成作業の必要性を身につさせたことであり、地道な集成作業がもたらした結果を受け取れる。

さらに今後の研究、出版事業に耐えうる高品質での写真撮影を手始めに塑像から着手した。既存のものは精度の点で問題が多く、再撮影の必要性を感じていた。優品に恵まれながらも精度の高い実測図、トレスス、高品位な写真を備えていないため、計画的に岡化・写真撮影も進めていかなければならない。

また、山王廃寺一帯は農村風景が良好に残されている。列島改造論以降、日本の原風景が急速に失われつつある。

つある。その危険を察知したかのように農林水産省、国土交通省、文部科学省の三省が歴史的景観の保全を呼び始めた。山王廃寺の存在する山王地区は市内で唯一、防風林としたシラガシの高垣であるカシグネが多数残された区域である。また、カシグネと相俟て大型の養蚕農家が頗り出す景観は将来にわたって引き継ぐべき財産である。今後、調査や保存、さらに整備を進めるにあたってもこの点を充分に考慮することが肝要である。

○元總社蒼海遺跡群

二つめに上野国府閑道調査である元總社蒼海遺跡群の発掘調査があげられる。平成12年度から開始された調査も、18年度で7年目を迎えた。

元總社蒼海遺跡群(9~10)では、閑泉橋遺跡や閑泉明神北遺跡で検出された古代の大構の延長部分を17~18年度の2カ年にわたる調査で長さ50mを調査できた。新元總社公民館建設に先立つ調査であったが、遺構の重要性から建物を北に移動させ保存を行った。しかし、その移動先から3間×10間もの規模を有する大型の側柱建物跡が検出された。国府直前の遺構であるが、国府との関連は少なからず認められるものと考えられる。惜しくも保存できなかった事は、遺構の価値判断が遅れたことと十分な保存対策を欠いた事に起因する。保存を検討した時にはすでに工事発注していたため設計変更を必要とした。しかし、それを行うには巨額な費用が必要であった。国府域の調査にあたっては、速やかに遺構確認、掘り下げを行い、遺構の内容についても迅速な判断を下す必要がある。判断が遅れると工事に対して多大な損害をもたらす結果となる。

なお、本調査地点の南東の元總社明神遺跡Vで6世紀初頭の豪族居館の検出している。国府成立以前にもこうした遺構が存在することは本地域の優位性をとらえる事ができる。

また、元總社明神遺跡Vや元總社寺田遺跡で牛池川の沖積地から縄文時代晚期後半から弥生時代初頭の土器の出土が見られたため、いずれは集落の検出が見込まれたが、ようやくその片鱗が見いだす事ができた。今回の調査によって縄文時代晚期後半の2軒の住居址を検出できた。在地大洞系の土器とともに大形透し彫りの漏斗形耳飾も出土した。

次に元總社蒼海遺跡群(8)では、40点に近い縄文陶器片が、区画された溝状遺構からまとめて出土した。しかし、幅4~6mと狭い調査区であったためその全貌が解明されていない。なお、本調査が存在する弥勒地区には国府と濃厚な関連を有する遺跡群が発見されている。まず、神社遺構が検出された閑越自動車道鳥羽遺跡、元總社ダイソーネの下にあった天神遺跡からも多量の縄文陶器や円面鏡、元總社弥勒遺跡でも、円面鏡、縄文陶器片、銅鏡などの国府を標榜する遺物が検出されている。

元總社蒼海遺跡群(11)・(12)では、古墳時代から平安時代の集落を中心に調査を行った。これらの集落のうち奈良・平安時代には「国府のマチ」を形成するものと考えられる。

以上のように国府の中心区域は一極集中形ではなく

武藏国府に見られるように多極分散形になる気配がうかがえつつある。今後、国府のマチや国府関連遺跡の広がりを追求しつつ、国府推定地である宮錦神社一帯の調査を早急に進めていかなければならない。

○馬場東矢次遺跡

堀之内式、加曾利B式期の良好な遺跡として知られる。今回の調査によって、土師器を使用する集落のほか、縄文時代中期～後期の土坑と良好な遺物が出土した。特にJD-6号土坑からは中津式土器や加曾利E4式から称名寺I式土器の共伴資料の良好なものが認められた。このほか、市内では大木10式土器の出土もみられることから、中期から後期への変遷を多彩にとらえることが可能となった。

○広瀬木ノ宮遺跡

東西43mの区画溝によって囲まれた部分から7世紀後半の3間×3間の縦柱の建物跡が検出された。1棟のみの検出であり、即断できないが郡衙に関係する施設である可能性が高くなってきた。過去の調査によって溝や建物跡がみつかっており、今後、調査可能な地点について積極的に調査を進める必要が生じた。

○石関西田三遺跡

良好な平安時代の水田跡を検出したほか、女堀の調査を行った。女堀については、藤沢川を渡る冲積地部分の調査であり、懸樋の検出が期待される部分であったが、ピット列の検出に留まった。

(2) 遺跡台帳整備事業

平成15年度から着手した埋蔵文化財包蔵地の踏査も4年目を迎えた。すでに群馬県教育委員会文化課ではホームページ上でWEB版群馬県遺跡地図の公開に踏み

切っているが、本市分については詳細分布調査成果ではなく机上の操作によって描き出された範囲である。市町村によって精粗が著しいためWEB地図の内容の検討が必要である。行政資料であるがゆえ、完成度の高いものが臨まれる。現状での反省材料は、詳細分布調査の結果に基づくものではない調査遺跡の成果が充分に反映されていない。隣接する市町村の遺跡がお互いの市町村域内で収まっているという矛盾が生じている。地形分析が充分になされてない。遺跡の範囲設定の基準が明確にされていない。これらの事の念頭におきながら作業を進めていかなければならない。

また、今後、詳細分布調査が前橋台地上に展開されるため、水田と集落の分析、また旧利根川の河道であった広瀬川低地帯の微地形分析が必要と思われる。また、GISへの登用も積極的に検討していかなければならぬ。

話は変わるが、各遺跡の調査成果図の集成作業が行われていない。集成作業を経なければ点から面への活用がなされない。旧勢多郡3町村の埋蔵文化財発掘調査要覧の作成作業を進めているが、旧前橋市域の埋蔵文化財調査成果についても成果図集成と編纂作業も取り組んでいかなければならない。

(3) 開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議は合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均130件以上、年にしても1654件もの協議に対応した。このうち1,000m²を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王廟寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数52件であった。このうち調査に移行したものは3件である。

今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の再整備とGIS活用を早急に進める必要がある。

平成18年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

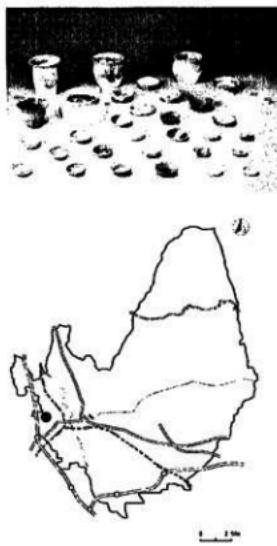
番号	遺跡名	ふりがな	コード	代表地番	面積	方式	調査原因	調査期間
1	元総社蒼海遺跡群(8)	おうみ	18A130-8	元総社町1748-1	1,603	直	区画整理	18/05/15-10/12
2	元総社蒼海遺跡群(9)	おうみ	18A130-9	元総社町1748-2	3,603	直	区画整理	18/05/12-09/20
3	元総社蒼海遺跡群(10)	おうみ	18A130-10	元総社町3-1-1	4,201	直	公民館移転	18/05/12-09/31
4	元総社蒼海遺跡群(11)	おうみ	18A130-11	元総社町1710	1,130	直	区画整理	18/08/22-12/07
5	元総社蒼海遺跡群(12)	おうみ	18A130-12	元総社町1823	1,735	直	区画整理	18/09/04-12/13
6	馬場東矢次遺跡	ひがしやつぎ	18J1	馬場町422-8	1,172	直	集落排水	18/05/08-08/18
7	広瀬木ノ宮遺跡	きのみや	18G58	広瀬町3-20	700	委	住宅建設	18/06/20-08/31
8	五代伊勢宮遺跡群(1)	いせみや	18A130-15	五代町1086-1	3,600	委	道路改良	18/06/16-12/15
9	石関西田三遺跡	にしだ	18A130-16	石園町1631	2,460	委	道路改良	18/09/25-12/27
10	横沢五反田遺跡	ごたんだ	18A130-17	横沢町533-5	450	委	道路改良	18/11/06-11/20
11	山王廟寺	さんのうはいじ	18A130-18	総社町總社2434-1	650	直	範囲確認	18/08/31-12/21
12	女堀	おんなぼり		富田町356-5	104	直	下水道建設	18/09/26-10/03

21,408

平成18年度 埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日
1	元總社蒼海遺跡群(8)	元總社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.19
2	元總社蒼海遺跡群(9)・(10)	元總社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.19
3	元總社蒼海遺跡群(11)	元總社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.5
4	元總社蒼海遺跡群(12)	元總社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.5
5	馬場東矢次遺跡	馬場東矢次遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.5
6	広瀬木ノ宮遺跡	広瀬木ノ宮遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2006.12.8
7	五代伊勢宮遺跡(1)	五代伊勢宮遺跡(1)	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.1.12
8	石関西田遺跡Ⅲ	石関西田遺跡Ⅲ	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.2
9	横澤五反田遺跡	横澤五反田遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007.3.2

1 元總社蒼海遺跡群(8)(18A130-8)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1784-1 地
調査期間 平成 18 年 5 月 15 日から
平成 18 年 10 月 12 日まで

担当者 近藤雅順・阿久澤真一

調査面積 1,347 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。今年度は 7 年目にあたる。

調査の成果 本遺跡の調査区は、元總社蒼海遺跡群の西側及び中央の三ヶ所にあり、西側より A 区・B 区・C 区とした。

A 区で検出した遺構は堅穴住居跡 37 軒、溝跡 16 条、土坑 5 基、ピット 2 基、落ち込み状遺構 1 座、道路状遺構 1 条である。北側では、住居跡は少なく、中世以降と想定される道路状遺構の下から 7 世紀後半頃と考えられる住居 1 軒と溝跡 8 条を検出した。その中の断面形状が逆台形の 1 条の溝跡からは多數の遺物が出土した。中央では 8~10 世紀の住居跡が複数検出された。窓は川原石・砂質凝灰岩・瓦などの構築

材を用いている。近くには国分尼寺があつたり、周辺で砂質凝灰岩の切出場がいくつか確認されているので、今後供給先の検討を進めていきたい。また煙道部に土師器甕形土器を使用しているものが 3 件検出された。南側では、住居跡はやや少なくなる。調査区の一一番南では中世以降と考えられる東西方に向走する大溝を検出した。全容は確認できなかったが、調査区東で、分歧して北へも伸びていくと考えられる。また、この溝跡の北側に、浅い掘り込みで炭化物を多く含む部分があり、古代の上野国中心城に近いことを思わせるような縁軸陶器の破片など多数の貴重な遺物が出土した。

B・C 区で検出された遺構は堅穴住居跡 9 軒、溝跡 3 条、土坑 5 基、ピット 4 基、井戸跡 1 基である。B 区の住居跡からは銅が付着した小型酸化焰須恵器が出土し、昨年度調査の蒼海(6)の鍛冶工房跡との関係も考えられる。

本遺跡地は、推定国府城の西側となる。今後調査される元總社蒼海遺跡群の成果を蓄積していく、「国府」を慎重に解明していきたい。

**2 元總社蒼海遺跡群(9)(18A130-9)
元總社蒼海遺跡群(10)(18A130-10)**



遺跡位置図

3 元總社蒼海遺跡群(11)(18A130-11)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町3丁目1-1他

調査期間 平成18年5月12日から

平成18年9月31日まで

担当者 梅澤克典・池田史人・

綿貫綾子・遠藤たか美

調査面積 4,201m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(9)、および元總社公民館新築移転工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(10)の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を実施した。元總社公民館新築に伴う調査は、今年で2年目にあたる。

調査の成果 本遺跡は元總社蒼海遺跡群の東縁部、牛池川左岸に位置し、昨年度の調査区の西および北側にあたる。本年度の調査では、6世紀後半から

10・11世紀の堅穴住居跡52軒から成る集落跡と縄文時代晩期の堅穴住居2軒を検出した。ほかに往日すべき構造として、大型掘立柱建物跡、および昨年度調査の府北側を区画する大溝の西側の延長を検出している。

古墳時代から古代の集落の主体は10・11世紀の住居であり、6から8世紀の住居は数軒で、9世紀の住居は1軒のみである。

掘立柱建物は10間(28.1m)×3間(5.9m)の規模を有し、官街に関わる建物と推定できる。柱穴埋土中から7世紀後半から8世紀初頭の遺物が出土しており、主軸方向と考えあわせて、構築時期は国府造営時期を測る可能性がある。

府北側を区画すると想定される大溝では、出土遺物や側壁のカマド構築材の採掘痕など、昨年度とほぼ同様の調査所見であったが、大溝北側で10・11世紀主体の集落が検出できること併せて、国府衰退期の様相をより明らかにできたと考えられる。

縄文時代晩期の資料は、これまで前橋市域ではごく限られていたが、元總社地区で初めて晩期後半の堅穴住居2軒を検出した。J-4号住居跡からは精製の香炉形土器、中空土偶の脚、大型透かし彫り付耳飾りなどが出土し、貴重な資料を得ることができた。

大型の住居が多いという特徴がある。

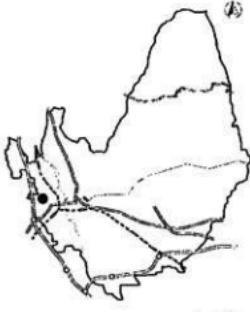
古代堅穴住居跡28軒は、7世紀から8世紀のものが6軒、9世紀のものが6軒、10世紀から11世紀のものが11軒である(時期不明5軒)。これをみると、9世紀以降になると全体的に住居跡が増え、それまで居住地として利用してこなかった調査区東側の谷地部分にも住居跡が検出されることから、土地利用の変化が窺える。

また、溝跡については、調査区を東西に走り、東端部で北上する、A s-B(浅間白輕石:1108年)を覆土に含むV字形の溝跡(最大深179cm、最大幅290cm)が検出された。この溝跡は、隣接する元總社蒼海遺跡群(4)において部分的に検出されていたが、今回、南東のコーナー部分が検出されたことにより、中世この溝の北側に「館」のような施設があったことが考えられる。

今回の調査では、推定国府城西側の集落の広がりと変遷を考え多くの資料を得ることが出来た。今後、さらに継続される元總社蒼海遺跡群の調査成果を期待したい。

古墳堅穴住居跡7軒は、6世紀中葉から7世紀初頭のものと考えられ、四つの柱穴が規則的に配列された比較的

4 元總社蒼海遺跡群(12)
(18A130-12)



遺跡位置図

5 馬場東矢次遺跡(18J 1)



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1823 ほか

調査期間 平成 18 年 9 月 4 日から

平成 18 年 12 月 15 日まで

担当者 梅澤克典・近藤雅順

阿久澤真一・遠藤たか美

調査面積 1,363 m²

調査の経緯 前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。今年度は 7 年目にある。

調査の成果 本遺跡は国分尼寺と推定

国府域のちょうど中間に位置する。

検出された遺構は、整穴住居跡 78 軒、整穴状遺構 2 軒、溝跡 15 条、井戸跡 6 基、土坑 13 基、土坑墓 1 基で、古墳時代末から奈良・平安時代、中世に至る遺構である。ここでは、まず、時代ごとの概略を述べる。

本遺跡で最も古い遺構は、6 世紀代の住居跡と整穴状遺構である。調査地東側で 5 軒検出されている。

7 世紀になると遺構はやや増え住居跡 12 軒である。この時期の遺構も調査

地東側に多い。

8 世紀は住居跡が 18 軒、9 世紀は住居跡が 17 軒と増え、調査地にまんべんなく広がって検出された。

10 世紀は 8 軒の検出で、密度は薄くなっている。

12 世紀以降の遺構は溝跡・井戸跡・土坑墓などである。土坑墓は、方形と思われる構の中央あたりに位置するが、2 つの遺構の関わりについては不明である。

この中で注目したいのが、9 世紀中～10 世紀頃と思われる井戸跡である。この井戸からは多数の瓦が出土した。瓦の分類からは、供給ものとの特定はできなかったが、この時期には、多量の瓦が廃棄される状況が国分尼寺では起こっていたことが考えられる。さらに、住居数の増減からも、国府城北西周辺の集落の衰退も想定される。

「国府のマチ」の解明は始まったばかりである。今後の調査成果の蓄積を待って、古代上野国が明らかになっていくことを期待したい。

事業名 農業排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設事業

所在地 前橋市馬場町 422-8

調査期間 平成 18 年 5 月 16 日から

平成 18 年 8 月 18 日まで

担当者 高橋 亨・神宮 啓

調査面積 1,172 m²

調査の経緯 農業排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

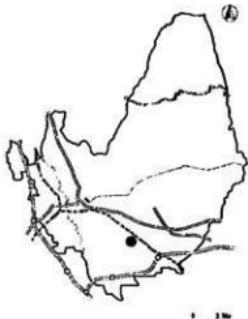
調査の成果 繩文時代では、堀之内 I 式土器を中心とする後期の住居跡が 2 軒、繩文時代の土坑が 6 基検出された。そのなかでも、底部の上 20 cm から底部に向かって大きく広がるフラスコ状の JD-5 繩文土坑、繩文蓋や方形口縁の深鉢等、繩文土坑が多数出土した。JD-6 繩文土坑は特徴的である。

古墳～平安時代では、住居跡が 11 軒検出された。H-4 号住居跡は 6 m × 30 cm 四方の大型で、出土遺物等から古墳時代後期（7 世紀後半）の住居跡と想定される。窓は固い粘土で被覆され、残り

のよい煙道を検出することもできた。また H-1 号住居跡からは、燃焼木材が多数検出された。自然の木を垂木として上手に利用していることや、木材の間から鉄釘が出土していることからこの住居は焼失住居であることが窺える。窓構築は石で固み粘土で被覆されており、羽釜が窓内から出土したことから、H-1 号住居跡は 10 世紀代のものであると想定される。他にも同じように石と粘土から窓を構築している H-3 号住居、石製紡錘車の出土した H-7 号住居、窓口につぶれた甕の出土した H-8 号住居、床面より完形に近い遺物が多数出土した H-9 号住居、大きな袖石を伴つ窓をもつ H-11 号住居など、バラエティに富んだ住居が検出された。

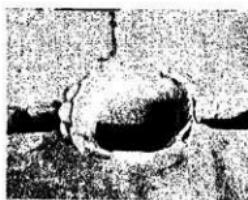
少なくとも繩文時代後期から平安時代にかけて、連綿とこの地において人々が生活していたことを窺い知ることができたのは確かであり、その意味においても貴重な発掘調査であった。

6 広瀬木ノ宮遺跡(18G58)



遺跡位置図

7 五代伊勢宮遺跡(1) (18C37)



遺跡位置図

事業名 市営住宅建設事業

所在地 前橋市広瀬町3-20ほか

調査期間 平成18年6月15日から

担当者 鈴木雅浩・後藤俊雄(前橋

市埋蔵文化財発掘調査団)

・伊藤順一・宮田忠洋(有

限会社毛野考古学研究所)

調査面積 700m²

調査の経緯 市営住宅建設(広瀬第五団地U-F棟新築)に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市長より前橋市教育委員会へ提出され、発掘調査へ移行する運びとなった。なお、調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導・監督のもと有限会社毛野考古学研究所が行った。

調査の成果 本遺跡は広瀬川右岸の河岸段丘上に立地し、古墳時代末～奈良・平安時代に帰属する堅穴住居跡20軒・遺物集中遺構1基・掘立柱建物跡1棟・井戸2基・土坑25基・溝8条・ピット85基及び中世以降と想定される溝6条が検出された。

掘立柱建物跡は古墳時代末(7世紀後半)に帰属するものと想定され、直径42cm～90cmの掘り方を有する3間×3間の組柱構造となっている。なお、同掘立柱建物跡と時期を同じとする遺構では溝2条・堅穴住居跡2軒が確認された。2条の溝は43mの間隔を開けて並走する関係にあり、この間に挟まれる掘立柱建物跡と主軸方位がほぼ同様である。また、主軸方位こそ異なるものの2軒の堅穴住居跡も並走する溝に挟まれる関係にある。このように溝という区画内に遺物跡が構築される状況は、古墳時代前期～後期に見られる「居館跡」と類似している。

本地域が4世紀後半～7世紀後半の古墳が集中する広瀬古墳群として周知される中、当該期における集落ないし「居館跡」の様相を見せる遺構が調査されたことは大きな成果である。

事業名 道路改良工事

所在地 前橋市五代町1086-1ほか

調査期間 平成18年6月16日から

平成19年1月26日まで

担当者 鈴木雅浩・須藤健夫(前橋

市埋蔵文化財発掘調査

団)・樋田友寿・山口和宏

(スナガ環境測設株式会社)

調査面積 1,200 m²

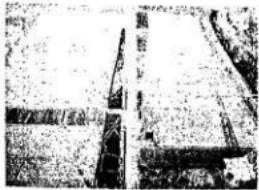
調査の経緯 市道42号線(五代南部工業団地)の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を実施した。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が行った。

調査の成果 本遺跡は、五代南部工業団地の中央を走る在来道路の改良工事に先がけ実施したもので、在来道路の施工の際、建設機械により切断・搅乱された部分が見られたが、隣接する各遺跡間の関連性が確認できたことは、今後の資料に大きく役立つことと思われる。

調査の成果 検出された遺構は、堅穴

住居跡24軒・堅穴状遺構2軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡10条・土坑96基・柱穴209基・集石遺構1箇所である。そのうち3軒の住居跡と40基の土坑は縄文時代の遺構である。いずれの住居跡も後世の遺構により半分ほど壊されていた。炉の形態は、地床炉が1軒と加曾利E式の埋設土器を配したもの2軒が検出され、埋設土器の周囲を長方形に大型の石で囲うものと、直径60cmの土器の口縁を補強するように扁平な手のひらほどの石を配したものを検出した。土坑では、袋状のものを6基と焼石、石器、土器など出土した土坑は15基を検出した。出土遺物は完形に近い土器・多量の土器・石器片・石柱や礫が面的に出土したもの等があり縄文時代中期のものであった。これらは縄文時代の遺構は調査区域の北側に多く検出され、隣接する環状土坑群の一端が見られた。また、古墳時代10軒・奈良・平安時代11軒の住居跡が検出され、人々の生活の痕跡が見られた。

8 石関西田遺跡 (18D15)



遺跡位置図

事業名 市道改良事業

所在地 前橋市石関町163ほか

調査期間 平成18年9月25日から

平成19年3月16日まで

担当者 鈴木雅浩・須藤建夫(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)・前田和昭(技研測量設計株式会社)

調査面積 2,460 m²

調査の経緯 市道00-061号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を実施した。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとに技研測量設計株式会社が行った。

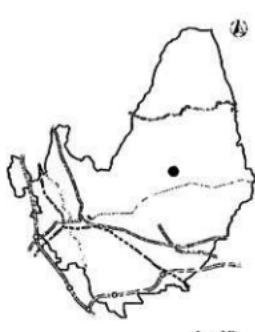
調査の成果 本遺跡は広瀬川低地帯と赤城山南麓のローム台地の境界線上に立地し、低地部では天仁元年(1108年)降下の浅間B輕石(As-B)一次堆積層に覆われている水田跡34面、畦畔36条、溝(水路)2条、寺沢川の旧河道を検出した。As-B輕石上位の浅間柏川テフラ(As-Kk)もほぼ全域に検出し、遺存状況は良好である。一部畦畔の走向軸は方位に対し斜行しており、水

田区画には規則性がみられない。寺沢川は水田面を切って調査区内を南北流しており、昭和20年代まで旧河道域を流れていることが確認されている。

本遺跡北側の台地上では女堀を検出した。履土最下層には、若干の水の流入があった事を示す砂粒が堆積しており、内部は小間割や湧水対策の排水溝が検出した。また、南側盛土は土地改良により削平されていたが、北側は女堀削削土である粘性の強いローム土を排出した盛土を部分的に検出し、その直下からAs-B輕石混土層を耕作土とする島(歛跡)を検出した。

以上の調査結果を踏まえ、低地部のAs-B輕石下水田はいわゆる方格地割りをもつ条里水田とは様相が異なることが確認でき、台地部の女堀では小間割等掘削過程を示す内部施設が検出していることから、未完成の状態で廃棄されたと考えられる。

9 横沢五反田遺跡 (18I13)



遺跡位置図

事業名 市道改良事業

所在地 前橋市横沢町533-5ほか

調査期間 平成18年10月19日から

平成19年3月16日まで

担当者 鈴木雅浩・後藤俊雄(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)・日沖剛史・土井道昭(有限公司毛野考古学研究所)

調査面積 150 m²

調査の経緯 市道大胡104号線(崖戸・前野線)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市東部建設事務所より前橋市教育委員会へ提出され、発掘調査へ移行する運びとなった。なお、調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導・監督のもと有限公司毛野考古学研究所が行っている。

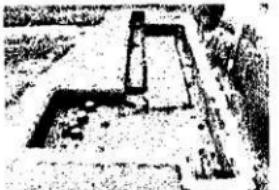
調査の成果 本遺跡は赤城山南麓に幾重にも形成されている台地上に立地し、縄文時代の竪穴状遺構1基・陥し穴1基・土坑6基・ピット35基及び6世紀中頃以降の井戸1基・溝1条が確認されている。縄文時代の

遺物は、花積下層式・ニツ木式・関山日式・諸穂c式期の土器が確認されている。このうち遺構に伴うものは花積下層式期の遺物のみで、他は遺構外からの出土となっている。なお、本遺跡から北北東へ400mの同じ台地上において横沢新屋敷遺跡が調査されている。同遺跡では花積下層式期の集落が確認されており、本遺跡との関連性を窺わせるものである。

遺構で特筆すべきは陥し穴で、底面において直径約9cmを測る小ピットが3基確認されている。小ピットは等間隔かつ直線的に配されており、斬ち割り調査の結果、直接杭を打ち込んでいる状況が捉えられた。

井戸及び溝からの出土遺物は見られず、いずれも埋没土中にHr-Pp(榛名山ニッケ伊香保テフラ)が混入していることから6世紀中頃以降と判断される。

10 山王庵寺(18A135)



遺跡位置図

事業名 山王庵寺範囲内確認調査
所在地 前橋市總社町總社 2434-1他
調査期間 平成 18年 8月 31日から
平成 18年 12月 21日まで

担当者 池田史人・綿貫縁子

調査面積 650 m²

調査の経緯 山王庵寺は7世紀中頃の白鳳時代に創建された県内では最古級の寺院と見られている。

これまでの発掘調査や研究によって、山王庵寺は全国的に見ても非常に内容の充実した古代寺院であることが分かってきた。しかしながら、中心伽藍の配置や、その範囲・規模、また寺院の性格などについて、いまだ実態がつかめていないのが現状である。そこで、市教育委員会ではこれらの問題を解決するため、山王庵寺等調査委員会の指導の元、今年度より5ヶ年計画で発掘調査を開始した。

調査の成果 今年度の調査の目的は主に、講堂範囲の確認・回廊東側の確認・寺域北限の確認である。この目的に添って計14箇所にトレンチを設定し調査を行った。

調査の結果、講堂については、版築

(建物の基礎部分)を確認し、その規模が東西30m、南北24mとなることが判明した。版築は黒色・茶色・黄色の土を厚さ5cm程度で交互につき固めて造られていた。

また、講堂東側を調査したところ、建物の柱の基礎(礎石根固)を3ヶ所検出した。柱の基礎は、径が約30cmの大の川原石を3~4個円形にめぐらしたもので、約3m間隔で東西に並んでいた。この調査地の東側では過年度の調査においても、礎石建物が発見されている。その位置関係から今回検出したものは北面回廊で、過年度の調査のものは東面回廊となる可能性が高い。

寺域北限の確認を目的に調査を行ったトレンチでは、東西に走行する溝(幅2.5m)を検出した。規模や位置からは寺域北限の区画構となる可能性が考えられる。

また、今回の調査では7世紀前半から10世紀代にかけての堅穴住居跡を12軒検出した。その中には、廃絶後に瓦が廃棄されたと見られる住居跡が確認され、鶴尾や完形の軒丸瓦、無紋の鬼瓦などの良好資料が多数出土した。

11 女堀

遺跡名 女堀
所在地 南北路線 国管18号
富田町地内
発生原因 城南地区 公共下水道工事
調査期間 平成 18年 9月 26日
～10月 3日

調査面積 120m × 1m = 120 m²

種類 中世用水路跡

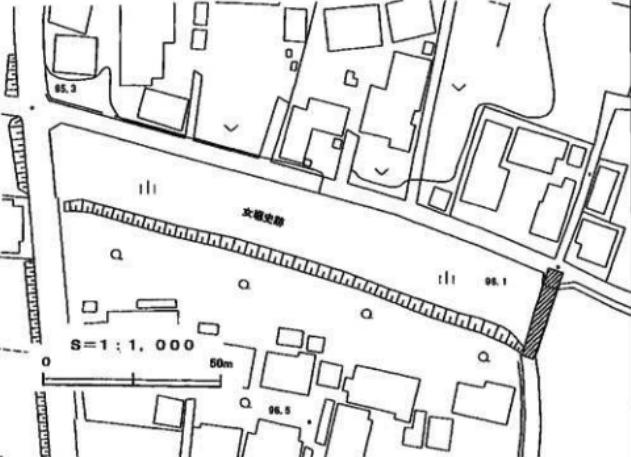
担当者 鈴木雅裕・小嶋尚・後藤俊雄
調査の経緯 今年度は、昨年、一昨年の堀之下町地内に引き続き、史跡女堀富田地区の東側道路部分の南北下水道工事敷設に伴い、中世用水路である女堀の通過地点を調査した。調査は幅1m、深さ1.8mの下水道掘削溝で限定されていたが、下水道管理課予定地から女堀を検出した。

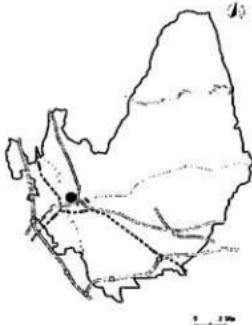
本地區の女堀は、確認できた範囲で下幅が22.6m、上幅が24.1mであった。また標高は確認できた底面部分で93.57mから95.77mの高さであった。

また、地山のローム土を切り込んで、ほぼ底部中央部で幅1.5mほどの通水溝が検出された。もう一段低いこの溝

は、今回の調査では最後まで検出できなかつたが、梯形断面の中央部に通水溝が設けられている点から、この地区の女堀は掘削を完了した形状を呈していると思われる。

位置図





遺跡位置図

事業名	前橋公園整備事業
所在地	前橋市大手町三丁目 600-1 ほか (前橋公園内)
調査期間	平成 18 年 12 月 19 日から 平成 19 年 1 月 26 日まで
担当者	前原 豊・鈴木 雅浩・後藤 俊継 小嶋 尚
調査面積	947 m ²

1 位置と環境

前橋市の市街地は、関東平野に望む前橋台地に立地している。本遺跡は、利根川左岸に位置し、周辺には遺跡も多く見られる。しかし、市街地は江戸時代の城下町から明治期以降現在に至るまで、県庁として利用されてきたため、遺跡の分布が明らかにされていない。

2 歴史的環境

本遺跡は、前橋台地の北端部に位置する。前橋台地の地表面は、縄文時代早期頃に堆積した總社砂層に厚く覆われ、それ以前の遺跡地はあまり知られていない。県の前橋城遺跡発掘調査では、縄文時代中期後半の河道が検出されている。

古墳時代になると、旧利根川沿いには、県内でも有数の古墳群が造られるようになる。特に、古墳時代末期から飛鳥時代にかけて造営された總社古墳群の築造技術は高く、これらの古墳の主は大和政権と密接に結びついた上毛野地方の中心豪族と考えられる。また、東日本最古の寺院である山王庵寺もこのころ創建され、優美な塔心礎・塑像群などに技術の高さがうかがえる。

古代になると、前代の繁栄を引き継いで元總社の地に国府が置かれ、その北西に国分僧寺・尼寺が建

造された。また、国府の南を管道である東山道が通過し、様々な物資や人の往来が盛んで、國の中核地へとなっていく。国府周辺の発掘調査では、古代の集落が多数発見されており、広範囲に集落が形成されていたと考えられる。

天仁元年(1108)、浅間山が大噴火をおこし、上野国一帯に大量の火山灰が降りそそいだ。時の国司は、この災害により国内の田畠が壊滅したことなどを都に上申している。この事実は前橋周辺の発掘調査でも確認されている。この灾害は、上野国内に大きな変革をもたらした。関白藤原忠実が策した上野国五千町歩計画をはじめ、上野各地に次々と莊園が成立し、そのもとで武士が勢力を拡大していったのである。

やがて、室町時代になると、上野国の守護に上杉憲房が任命され、その子憲穂は関東管領に任命された。上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏は、国の中心であった国府の地に蒼海城を築き、これを本拠地とした。各地の武士団は山麓部に多く山城を築き、平野部では屋敷に堀を巡らせて城館とし、抗争に備えた。本遺跡周辺にも、数多くの城館が存在していた。

15世紀中頃になると、守護代長尾氏の勢力は衰えはじめる。そうした中で台頭してきたのが、箕輪城の長野氏である。長野氏は、東上野進出の拠点として、利根川に面した石倉の地に城を築くが、利根川の変流によって壊滅してしまう。変流した利根川の東側に残った郭をもとに築かれたのが、尻橋城とされている。この頃、全国各地は戦乱の時代にあり、東国の要である上野国もその渦中にあった。内乱等で勢力を弱めた関東管領上杉氏は、長尾氏に管領職を譲り、上野国内の団結を図る。上杉謙信は、尻橋城を本拠地として度々越山し、北条氏、武田氏と対峙し抗争を繰り広げ、戦乱の時代の中で重要な基点としての役割を担った。

やがて、天下統一を果たした徳川家康は、江戸城を本拠地として幕府を置き、各地の大名に領土を安堵して幕藩体制を確立した。東国の大名である上野国には諸大名を中心に配置し、江戸の北の守りを固めた。尻橋城には、諸大名の酒井重忠が入城し、この地を治めた。17世紀後半から利根川の洪水による城の崩壊が進んだことも原因として、寛延二年(1749)九代酒井忠恭は姫路へ転封となり、代わって姫路城主松平朝矩が入城した。

その後も城の「川欠け」は続き、明和四年(1767)には、ついに前橋城を放棄し、川越へ移っていった。城主が不在になると前橋城は襲され、その後約100年間、陣屋が置かずいた。幕末になると、安政六年(1859)の横浜開港とともに生糸貿易によ

り、前橋は活況を取り戻した。そして、慶應三年(1867)には、領民の協力を得て、前橋城を再築して城主松平直克を迎えることができた。ところが、翌年には明治維新、明治四年(1871)に廢藩置県が行われ、城郭の機能を果たさないまま、群馬県守として使われた本丸御殿を残して取り壊されてしまった。

3 調査に至る経緯

平成13年1月13日、前橋市公園緑地課(以下公園緑地課)より、前橋公園再整備における文化財の取り扱い(前橋城)について照会を受ける。平成18年4月8日、公園緑地課より前橋公園再整備における施工について説明を受ける。文化財保護課としては、前橋城土塁の重要性及び歴史的価値を踏まえると、現状保存が望ましい旨を回答。また、やむをえず再整備を実施する場合は、工法の変更を依頼。公園緑地課より、工法を変更した場合は、施工費が著しく増大すること、隣地へ影響が及ぶこと等になるので計画に沿って整備を進めたい旨の回答あり。ただし、施工費は多少かさむが、できるだけ土塁に影響が及ばないように掘削量を減らすこと。また、掘削後は形状を復元し、一連の土塁と一体化した施工に変更するとの付記あり。また、本課としては土塁等の掘削及び復元にあたり、前橋市文化財調査委員の松島榮治氏、阿久津宗二氏から指導・助言(現状保存を基本とし、復元等に万全を期す)をもとに公園緑地課と協議を進めたいと回答。公園緑地課はこれを了承。同年7月12日、前橋市文化財調査委員会議が開催される。文化財保護課より前橋公園再整備(前橋城土塁工事等)について、これまでの経緯及び今後の対応について説明が行われる。調査委員から今後の対応については、現状保存を念頭においていた整備計画を進めてほしいとする旨の指導・助言あり。同年7月27日、前橋市文化財調査委員の梅澤重昭氏より、前橋公園再整備(土塁の掘削、復元の仕方等について)にあたり、公園緑地課、文化財保護課に指導・助言あり。同年8月8日、梅澤氏、公園緑地課、文化財保護課の3者で協議し、可能な限り現状保存を念頭に置いていた再整備を進めることで合意に至る。同年8月9日、県文化課に経過報告。前橋公園再整備にあたり十分な調査及び記録保存を行うこと、周囲の環境と調和した復元になること、復元にあたっては文化財調査委員の指導を受けること、等の指示あり。同年8月25日、確認調査(その1)を実施する。遺構は検出されず。土器片及び陶磁器片を数十点検出。同年10月20日、文化財保護法第94条通知の依頼を受ける。同年11月6日、県文化課と市文化財保護課で現地ヒアリングを実施。その後、土星掘削工事前に再度、確認調査を実施するように指導あり。同年12月

19日～12月29日に確認調査(その2)の実施。その結果、空堀もしくは堀、伝野球場を検出。また、開発予定地内の平面図及び1・2トレンチの土星断面図を作成。なお、瓦片及び陶磁器片を数十点検出。

4 調査の目的(その2)

トレンチを2本設定。1トレンチはL・M-115～121グリッド(県庁内調査区と同じグリッドを使用)前橋公園整備構造に基づき、オープencutにより地下歩道が設置される場所。当初、立会い調査で十分な断面観察を行い、図面や写真記録の作成を計画していた。しかし、県からの度重なる助言があったため、①就棚調査、さらに②立会い調査と2段構成の調査を行うこととなった。

・土塁の構築状態の把握

・土塁平面形で屈曲点となる場所であるためその点の解明

・崖線の抉れ部分の解明

2トレンチはL～O-111・112グリッド。南側から土塁に沿って地下歩道に接続する歩道。地下の遺構保存状態の確認。

5 調査の成果

<1トレンチ>

①再築前橋城土塁

検出された断面の計測結果は、幅20m、高さ4mである。両側の削られた裾部を復元すると幅は22mに及ぶ。構築層は大別すると8層に分けられる。作業工程も同様に8工程と推定される。土塁の構築にあたっては、前橋泥流の上面に堆積する浅間C軽石層を水平に削り平坦面を作出し、そこから土を積み上げている。地山である浅間C軽石層の「1層」を108.75mの高さまで水平に削り込んで、8層と呼んだ20～30cm程度の厚さの褐色土で水平に盛り基底層としている。

断面形状は外側が急傾斜であり30度を測る。それに比べ内側は17度と緩傾斜である。構築層の平均厚は北側で1mであるが南側では20cm以下と薄くなる。傾斜は8度と緩やかである。全体の形状は三角形となる。構築土層に際立った特色はない。しかし、下部に行くにつれ、叩き締めが堅固になる傾向を示している。また、編物や石、木材といった土以外の補強材の検出はなかった。ただ、中間より上位に白色粘土層が均等に使用されていた。作業の大きな区切りとしたのであろうか。

②再築前橋城土塁下に検出されたそれ以前の空堀

1 トレンチ北端に一部が検出されたに過ぎず、全貌が明らかではない。再築前橋城土壘の基底層である8層に覆われていることから、再築前橋城土壘以前の遺構である。検出された範囲で2層を数えるが、第9層と呼んだ層は人為的に埋め戻した可能性が高い。また、自然堆積層と思われる10d層には水の流れた形跡はなく、溜水の結果から生じた還元（グライ）層であった。今後の立会い調査で全貌を明らかにすることが可能である。

また、この1トレンチを設定した地点における平面状の屈曲は、風呂川の悪水抜きの河道により大きく侵食を受け形成されたという蓋然性は極めて低くなかった。当初、想定した利根川の主流が突き当り生じた「竪穴状の侵食」という想定もあながち否定できないものとなった。

<2 トレンチ>

③再築前橋城土壘の構築状況

断面形状は調査の目的ではなく、裾部の延長がどこかという目的であった。内側の傾斜は1トレンチと異なり30度と急傾斜で仕上げられていることは注意を要する。土壘構築土層は大きく4層に大別される。ただし、4層は空堀もしくは池を埋めた層である。粘土ブロックが混じる層で全体を覆い尽している。5層以下の層についても、自然堆積層というより人為的に埋め戻した層の意味合いが強い。6層から五輪塔火輪を転用した手水鉢が出土した。川原石に混じて埋め戻しに用いたものである。

④再築前橋城土壘下にそれ以前の空堀もしくは池と思われる遺構

トレンチ調査のため全貌は不明。基盤層は前橋泥流である。底面である標高108.00mには純層の浅間YP・軽石層が認められた。当初、空堀と想定したのは北東から南西にのびる右肩部を検出したためである。その後、ほぼ南北に湾曲する肩部を検出したため、全体が円形になるため空堀と考えるに無理が生じたため池の可能性が生じた。また、ここを覆う覆土は同一時間内に形成された層であることが判明した。いずれにしても、最下層である7層は還元（グライ）層であり、ドブ臭さが漂った。流れたものではなく、水溜まりをなしていたものと判断できる。

⑤再築前橋城土壘を掘削して構築されたコンクリート製の2段の階段

年配の方の談により野球場跡と判明するが確たる証拠はない。

<検出した遺物>

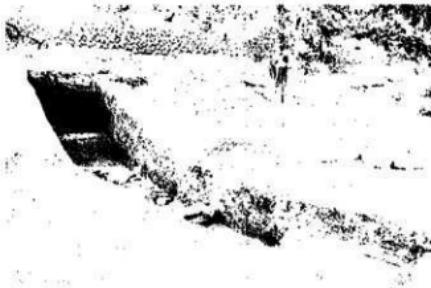
瓦片及び陶磁器片ボリ袋2袋・五輪塔火輪を転用した手水鉢1個。

城土壘が良好な状態で遺存することが判明した。また、その下には再築前橋城以前の空堀もしくは池と考えられる遺構の存在も明らかとなった。

前回調査の結果では、地山に良好な基盤層である前橋泥流の存在が確認できなかった。しかし、今回、2つのトレンチの基盤には全面にわたり見事な前橋泥流や浅間C・軽石層純層が観察できた。このことは、前橋公園ステージ側は廃藩置県、戦前、前橋空襲、戦後を通して幾度となく掘削された事を物語っている。



1 トレンチ全景(南西から)



2 トレンチ全景(南東から)

確認調査結果から、1・2トレンチとも再築前橋

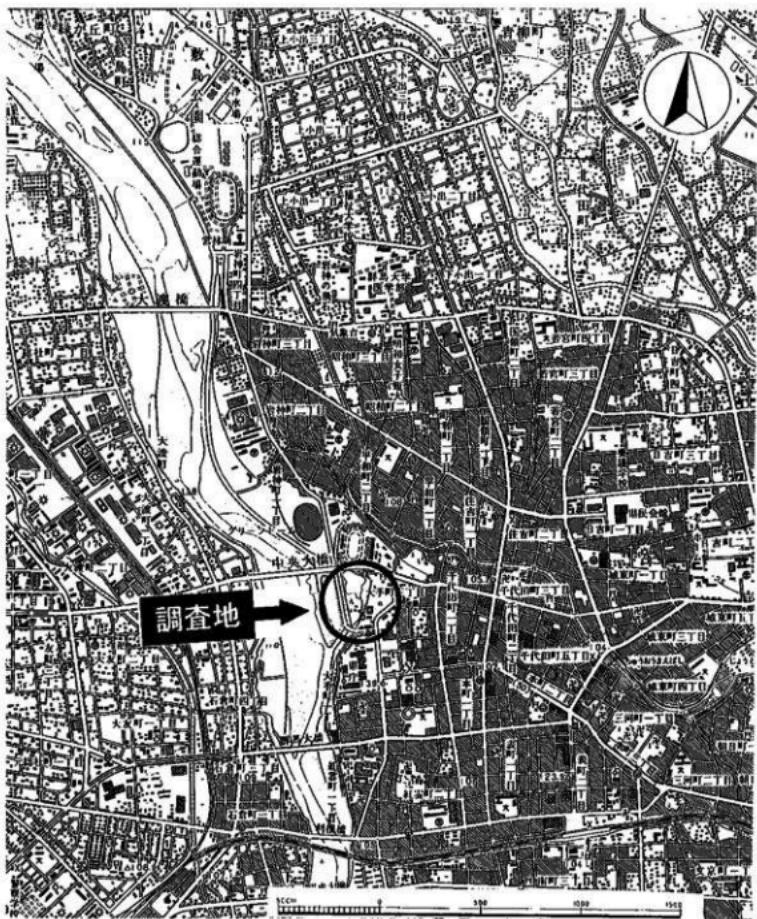


図1 前橋城土壌調査区位置図

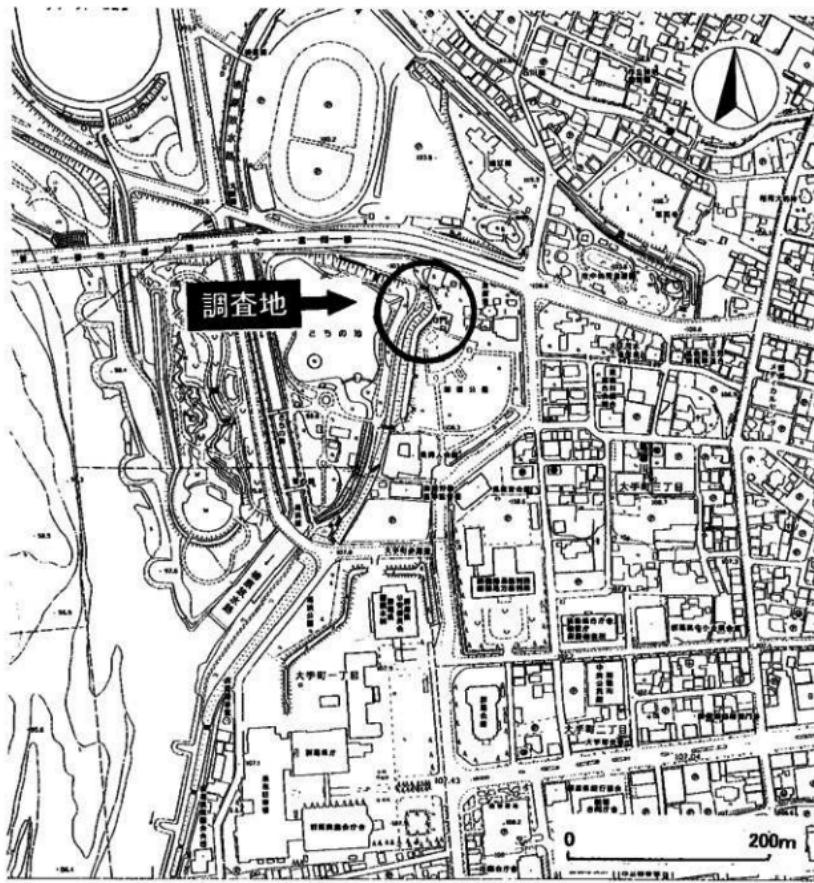


図2 前橋城土壙調査区周辺図（現在）

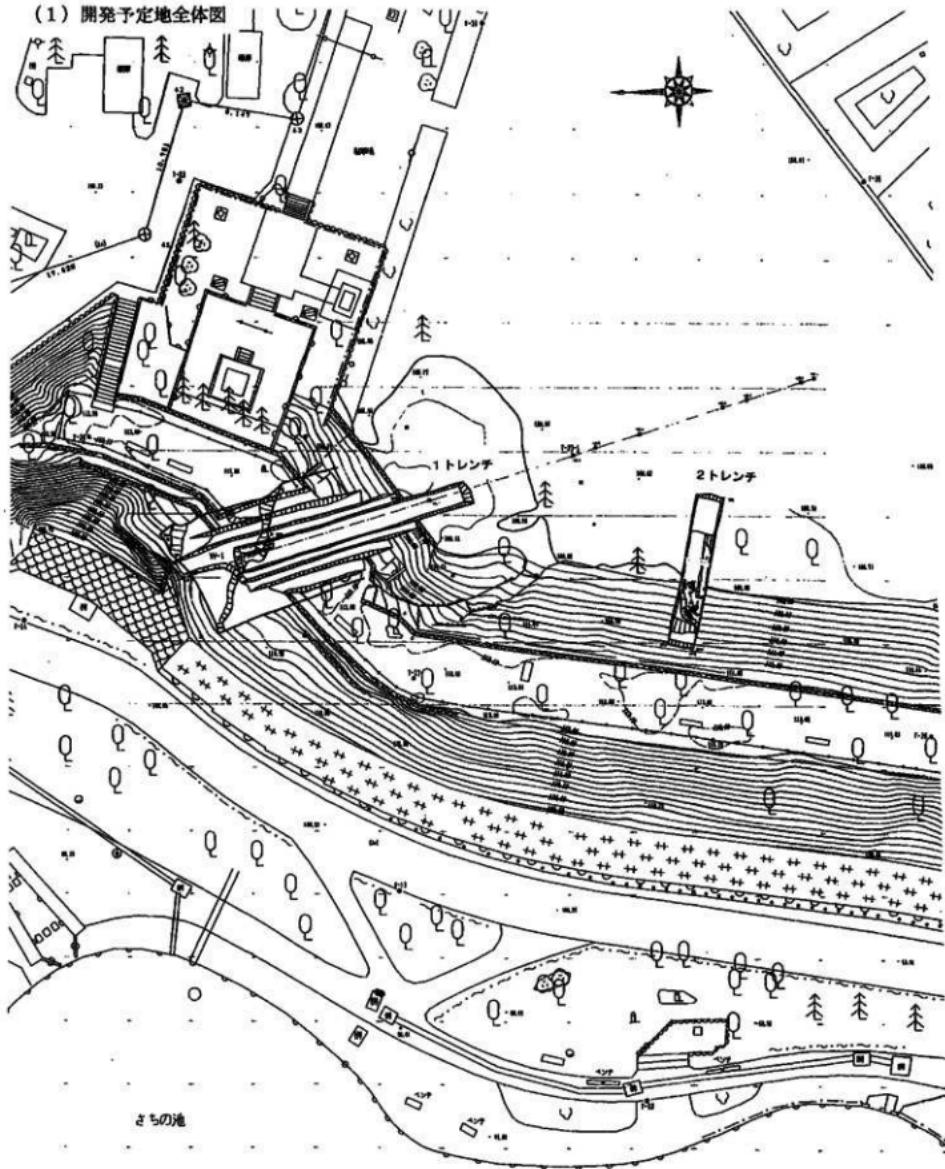


図3 前橋城土塁調査区周辺図（昭和9年）



図4 再築前橋城縄張り図と調査区

(1) 開発予定地全体図

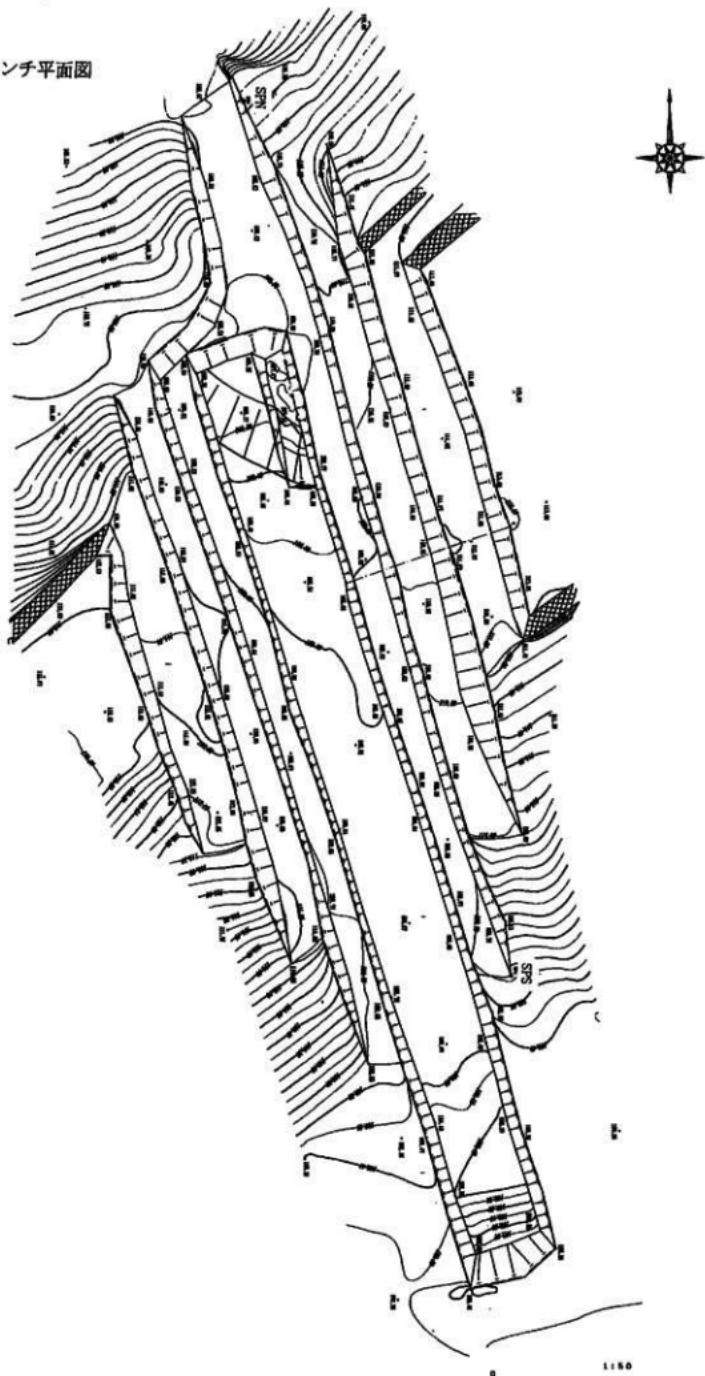


凡　則	
北	北
東	東
西	西
南	南
左	左
右	右
上	上
下	下
内	内
外	外
左側	左側
右側	右側
上側	上側
下側	下側
内側	内側
外側	外側

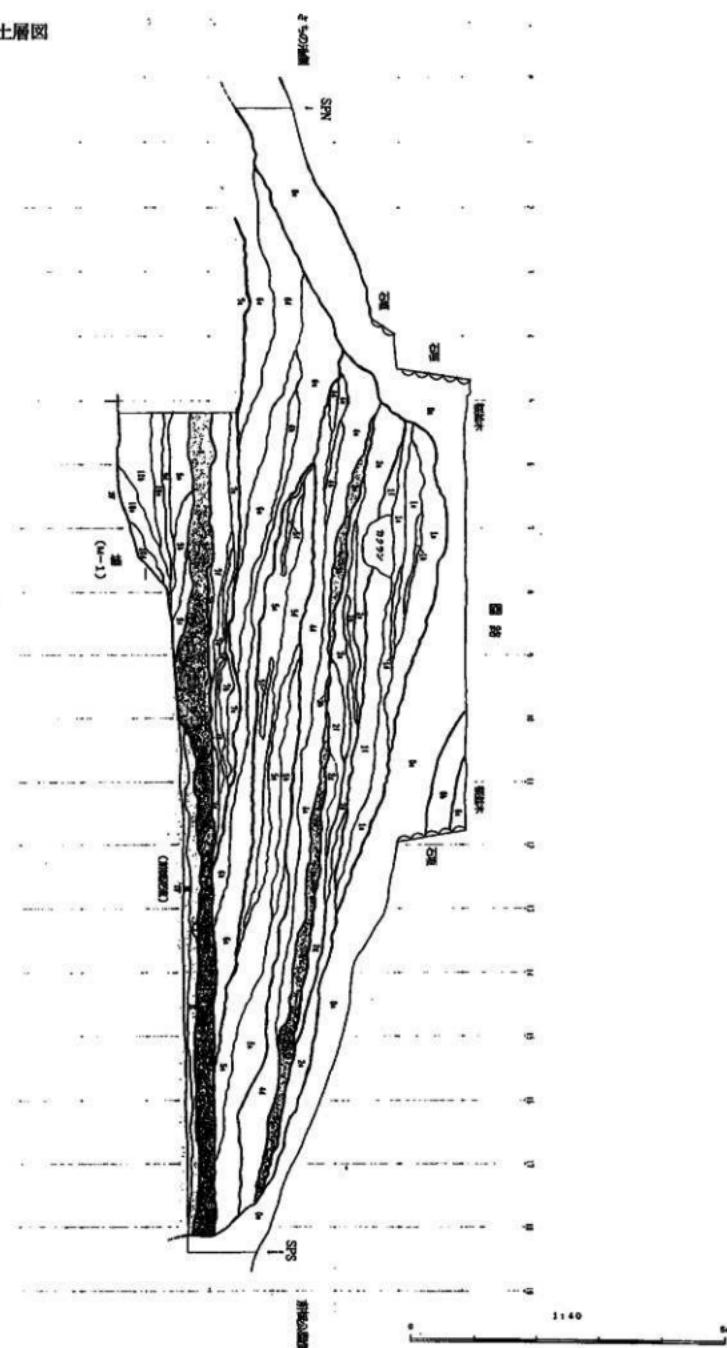
1:200

0 5 10 15 20

(2) 1 トレンチ平面図



(3) 1 トレンチ土層図



(4) 1 レンチ層序説明

- 0a 層 にぶい黄褐色細砂層。締まりなし。粘性なし。現代層。褐色ブロック（極小）
- 0b 層 にぶい黄褐色細砂層。締まりなし。粘性なし。現代層。カクラン石混入（20 cm大）含む2%。
- 0c 層 にぶい黄褐色細砂層。締まりなし。粘性なし。現代層。
- 1a 層 暗褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石1 mm~5 mm (As-C) を含む10~20%。
- 1b 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒少量 (As-C) 5% 1 mm~5 mm。
- 1c 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒少含む (As-C) 5% 1 mm~5 mm。
- 1d 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒少含む (As-C) 1~2% 1 mm~5 mm。
- 1e 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒少含む (As-C) 5% 1 mm~5 mm。黒色土層含む
- 1f 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒少含む (As-C) 5% 1 mm~5 mm。黄褐色ブロック5 mm大を極小。
- 2a 層 黒褐色細砂層。締まりややあり。粘性なし。白色軽石粒含む (As-C) 10~20% 1 mm~10 mm。砂利3~5 cm大極小。
- 2b 層 出褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒多量 (As-C) 25~30% 1 mm~5 mm。
- 2c 層 黑褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 少量 5% 1 mm~5 mm。炭化物極小。
- 2d 層 暗褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 稀少 1~2% 1 mm~5 mm。磁器片。灰白ブロック極小。
- 2e 層 暗褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 稀少 2~3% 1 mm~5 mm。炭化物ブロック
- 2f 層 黑褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 含む 10% 1 mm~5 mm。褐色ブロック極小。
- 2g 層 暗褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。炭化物極小程度あり 1~2%。砂利含む。
- 3a 層 暗褐色鐵砂層。締まりやややあり。粘性なし。にぶい黄褐色 (6/3) 層が場所にはじむ
- 3b 層 暗褐色鐵砂層。締まりやややあり。粘性なし。何箇所かにぶい黄褐色 (4/3) 層で占められている。にぶい黄褐色ブロック (4/3) (5 cm大) 明黄褐色。白色。にぶい黄褐色いずれのブロック混合している。
- 4a 層 暗褐色細砂層。締まりやややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 極少 1~2%。褐色ブロック極小木の根あり
- 4b 層 黑褐色細砂層。締まりややややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 含む 10%。暗褐色ブロック (5 cm大) 1つ含む
- 4c 層 暗褐色細砂層。締まりややややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 極少 1~2% 1 mm~5 mm。
- 4d 層 黑褐色細砂層。締まりややややあり。粘性なし。白色軽石粒 (As-C) 極少 1~2% 1 mm~5 mm。四側暗色土層含む
- 5a 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 40% Φ5~10 mmロームブロック 1%。
- 5b 層 暗褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 7%。
- 5c 層 黑褐色細砂層。締まりあり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 10% Φ10 mm以上ロームブロック 2%。
- 5d 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり極めて。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 3% 極大の石を含む。
- 5e 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 50%。
- 5f 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性なし。粘性やややあり。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 7%。
- 6a 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり極めて。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 3%炭化物粒。わずかに炭化物粒。磁器片
- 6b 層 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 30%。
- 6c 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 10%。
- 6d 層 暗褐色細砂層。締まり。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 2%炭化物粒。わずかに含む。
- 6e 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 2%わずかに炭化物粒。
- 7a 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり。粘性あり。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 10% Φ2~5 mmローム粒 1%。
- 7b 層 暗褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 10%わずかに炭化物粒。
- 7c 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 15%含む。
- 7d 層 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 40%含む。ロームブロック若干含む小石含む
- 7e 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり極めて。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 5%含む。炭化物粒わずかに含む
- 7f 层 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 40%含む。小石、ロームブロックわずかに含む
- 7g 層 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 20%含む。小石とロームブロック若干含む
- 7h 層 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ2~5 mm白石輕石 (As-C) 10%含む。磁土粒、炭化物粒わずかに含む
- 8 層 暗褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 (As-C) 7%含む。炭化物粒。小石わずかに含む
- 9a 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ2~5 mm白石輕石 (As-C) 10%極大白色シルトブロック 2%。極大 2%
- 9b 層 黑褐色細砂層。締まり極めて。粘性やややあり。Φ1~2 mm白石輕石 3%。白色シルトラミナ状に含む
- 9c 層 暗褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 7%。小石とシルトブロック 5%炭化物粒 1%。
- 9d 層 暗褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石 1%。
- 10a 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ2~5 mm白石輕石 (As-C) 10%。炭化物粒 10%、小石 1%。
- 10b 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ2~5 mmロームブロック 10%。炭化物粒 5%、Φ2~5 mm白色軽石 5%。
- 10c 層 黑褐色細砂層。締まり。粘性やややあり。粘性なし。Φ2~5 mm白石輕石 (As-C) 7%。炭化物粒 3%、ロームブロック 5%。
- 10d 層 黄褐色細砂層。締まり。粘性なし。Φ1~2 mm白石輕石と炭化物粒各 3%。極大ロームブロック 30%。

地山層

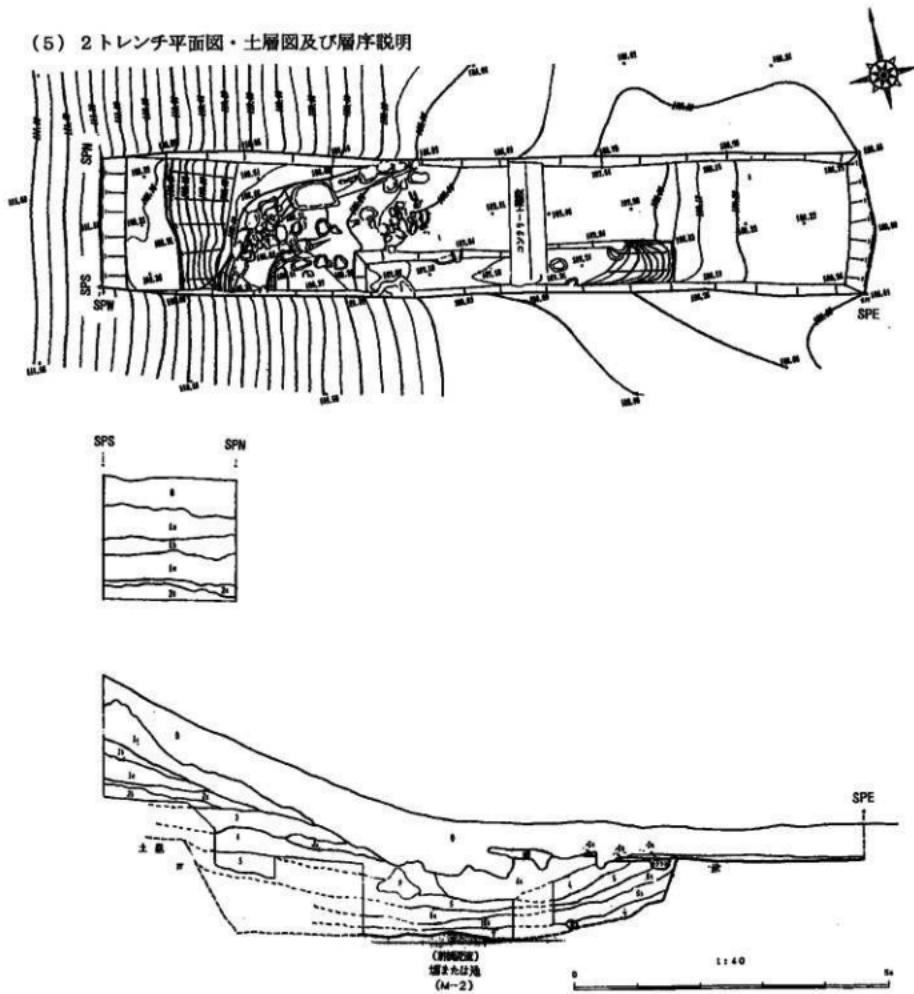
1 層 黑褐色細砂層。締まりあり。粘性なし。Φ2~5 mm白石輕石 (As-C) 50%含む。地山

2 層 黑褐色細砂層。締まりあり。粘性あり。極小白色軽石若干含む。地山

3 層 にぶい黄褐色鐵砂層。締まりあり。粘性あり。地山

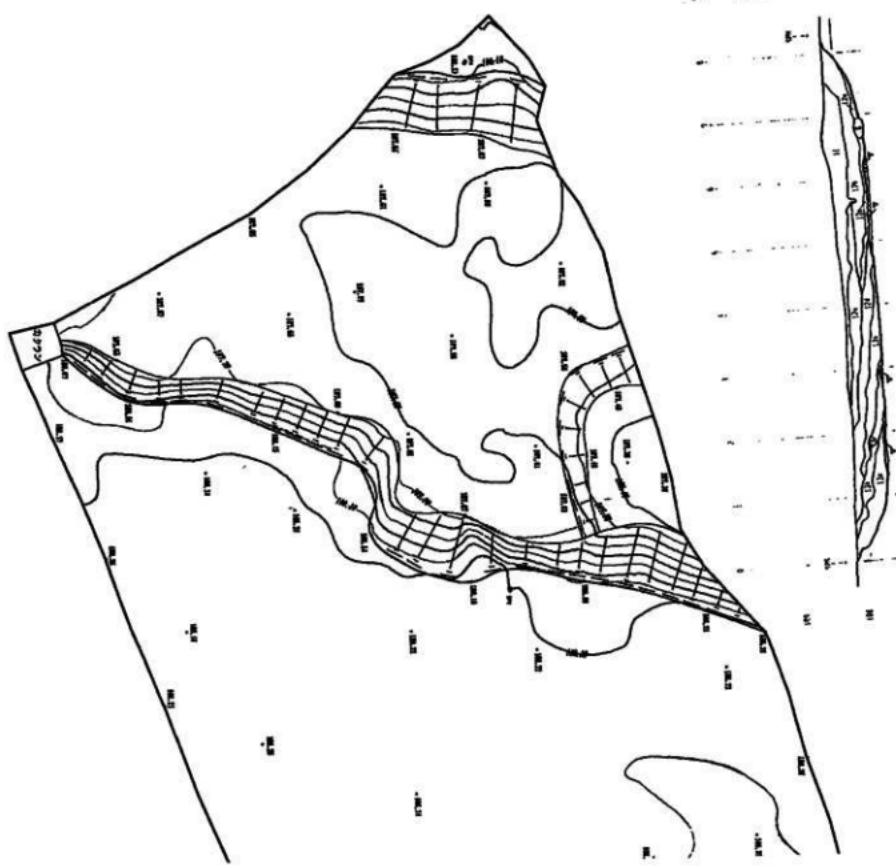
IV 層 黄褐色細砂層。締まりあり。粘性あり。地山

(5) 2トレンチ平面図・土層図及び層序説明



- 0a 層 灰黄褐色粗砂層。締まり極めてあり。粘性なし。砂主体。野球場グランドの砂か?
- 0b 層 灰褐色粗砂層。締まり極めてあり。粘性ややあり。ローム土 10~20%。
- 0c 層 黄褐色粗砂層。締まりあり。粘性ややあり。ローム土 5~10%、 ϕ 1cm石 2~3点あり。階段をつくるときの振り方。
- 1a 層 黑褐色礫~粗砂層。締まりややあり。粘性ややあり。ローム土 3~5%。
- 1b 層 黒色微砂層。締まりややあり。粘性あり。
- 1c 層 黒色微砂層。締まりややあり。粘性あり。
- 2a 層 喙オリーブ褐色微砂層。締まりややあり。粘性極めてあり。
- 2b 層 灰黄色微砂層。締まり極めてあり。粘性極めてあり。
- 3 層 黑褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。小礫を 5~7%。
- 3a 層 黑褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。
- 4 層 黑褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。
- 4a 層 黑褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。地山のローム・ロームブロック、30~35%含む。
- 5 層 黑褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。地山のローム・ロームブロック、5~7%含む。
- 6a 層 にぶい灰褐色粗砂層。締まりあり。粘性あり。地山のローム土が主体。五輪塔火輪転用の手水鉢。

(6) 1 トレンチW-1 平面図・土層図及び層序説明



- 11 層 黒褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性極めてあり。板状の炭化物 5mm~10mm 20%含む。2mm~5mm ～人、焼土ブロック 10%含む。
- 12a 層 暗褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。極大の $\sigma-\lambda'$ ワット 20%含む。
- 12b 層 暗褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。2mm~5mm ～人、炭化物 5%含む。
- 12c 層 暗褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。極大の $\sigma-\lambda'$ ワット 10%含む。
- 12d 層 黒褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。板状の炭化物、 $\sigma-\lambda'$ ワット 2mm~5mm 10%含む。
- 13a 層 暗褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。 $\sigma-\lambda'$ ワット 2mm~5mm 10%含む。板状の炭化物 2mm~5mm 3%含む。
- 13b 層 にぶい黄褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。極大の $\sigma-\lambda'$ ワット 10%含む。炭化物 3%含む。
- 13c 層 暗褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。板状の炭化物 2mm~5mm 7%含む。 $\sigma-\lambda'$ ワット 2mm~5mm 3%含む。
- V 層 灰黃褐色細砂層。締まり極めてあり。粘性あり。地山

5 市内遺跡発掘調査事業

平成 18 年度の開発に伴う埋蔵文化財の確認調査は、試掘調査で 26 件、工事立会いについては 18 件行った。試掘調査の内訳としては、公共開発 12 件、民間開発 14 件であった。この中で 3 件が本調査へ至った。石関西田遺跡Ⅲ、横沢五反田遺跡は道路建設に伴う調査、箱田町水田遺跡では遺跡の保存が不可能なため緊急調査を行った。また試掘調査の結果を生かすため、包蔵地の拡大と縮小を進めた。

平成 17 年度から始めた開発照会をより情報の充実化し、埋蔵文化財の周知をするため、開発窓口課に開発者へのお願い通知書の配置も行った。その結果、照会件数も前年度より増加し約 1700 件を数えた。この結果から、開発者に対して埋蔵文化財の取り扱いについて周知が図れたものと思われる。

(1) 事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及びそれ以外であっても規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施する。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に開発者と埋蔵文化財の保存協議を行う。

(2) 事業の内容

① 調査方法

開発地内に調査トレーニングを設定し、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の 10% 程度を基本に調査をした。

② 記録作成

区域内の全体図作成、トレーニング内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

(3) 調査結果

調査を行い 11 件で埋蔵文化財が確認できた。そのうち 3 件で包蔵地の新規登録・拡大を行った。

① 確認できた遺跡の時代

縄文時代、古墳から平安時代、中世、近世等。

② 検出遺構

住居跡、水田跡、城館跡等。

③ 新たに包蔵地の登録・拡大した遺跡

- ・ 石関西田遺跡Ⅲ（平安時代の水田跡、女廻跡：道路拡幅工事に伴う発掘調査）
- ・ 横沢五反田遺跡（縄文時代の住居跡、土坑：道路拡幅工事に伴う発掘調査）
- ・ 二之宮鶴谷遺跡（平安時代の水田跡：集落排水施設建設に伴う発掘調査 平成 19 年度に調査予定。）

6 遺跡台帳整備事業

(1) 報告書の PDF ファイル化、写真資料・図面のデジタル化

昨年度に引き続き、台帳整備の一環として、過去に前橋市教育委員会及び前橋市埋蔵文化財発掘調査団が刊行した調査報告書等のデジタル化処理業務を行った。本年度業務を行った報告書等は以下のとおりである。

- 前橋の文化財
- 内郷遺跡群 I ~ VII、X ~ X II
- 横沢遺跡群 I ~ VI
- 富田遺跡群
- 富田遺跡群・西大室遺跡群
- 富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群
- 西大室遺跡群
- 鶴谷遺跡群 I ・ II

この業務を行ったことにより、保存の永続性・確実性を高めると共に、資料の再編集や情報通信網を経由した資料請求などにも対応可能となった。

また、今年度は埋蔵文化財調査の重要写真や図面について一部デジタル化を行った。写真資料については、重要遺跡の大判写真からデジタル化を開始した。図面については、大室古墳群関連の大判図面をデジタル化した。写真資料については、今年度の他機関への写真資料貸出に活用できた。

今後も未 PDF ファイル化、未デジタル化の資料について作業を進めていきたい。

(2) 遺跡分布調査

平成 15 年度より開始した詳細遺跡分布調査の 4 年目にあたる。本年度は芳賀地区・南橘地区を調査対象範囲とした。

調査にあたっては、年度当初から調査対象地の過去の遺跡発掘調査資料等を確認し、資料作成を行った。また、実際の調査用の下図作成・現地の下見を行い、現地踏査に備えた。昨年度に引き続き、資料のデータベース化作業も行った。

踏査の主な内容は、農閑期の田畠や空き地を作業員が実際に歩き、地表に点在する土器片や石器片を探集・記録するものである。

本年度は昨年度より調査対象面積が若干広まったため、当初から大量の調査員を動員し、12 月 5 日から現地調査を開始した。2 月 7 日をもって本年度の調査を終了することができた。

調査では、標高の高いところ、旧河川域では芳しい成果が得られなかったが、かつて古墳があったと思われる土地では埴輪片を採取した。また、縄文土器がまとまつた採取できたところもあった。

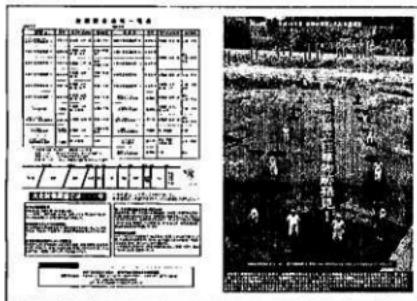
今回の調査によって得られた成果を今後整理・分析し、前橋市遺跡地図作製の基礎資料としていきたい。

7 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレットの作成

平成18年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を「い・せ・きワールド in 前橋 平成18年度前橋市埋蔵文化財発掘調査」として作成した。前年度までのパンフレット形式ではなく、A3判の両面印刷とした。前橋市の地図と発掘調査場所とを一日でわかりやすくした。また文化財保護課全体の事業紹介も取り上げた。

3,000部作成をし、発掘調査場所が校区である小学校5・6年生ならびに地区公民館、市役所市民ロビー、各支所、教育関係機関等に配布し、埋蔵文化財に対する啓発を進めた。



(2) 公開展示

文化財保護課の玄関ロビーにおいて、平成17年度の発掘調査出土資料を中心に展示を行った。縄文時代から平安時代にかけての遺物で種類もバラエティに富んだものとなった。この他に、写真やパネル等も併せて展示了。壁面には前橋の地図パネルを作成して発掘調査地点を表示した。

さらに市民プロジェクトでの復元土器を展示了。このことで本課の顔(玄関)が一段と素晴らしいものとなった。

(3) 資料の貸出

本年度の埋蔵文化財関係の資料・写真の貸出は10件、資料調査(見学)は10件だった。主な貸出資料・貸出先は以下のとおりである。

貸出資料名	貸出先	目的
柳久保遺跡縄文土器・市ノ関前田遺跡石器・大胡城土器類	群馬県立博物館	常設展示 (毎年更新)
上ノ山遺跡石器・市ノ関前田遺跡石器	岩宿博物館	常設展示 (毎年更新)
大室古墳群・元総社明神遺跡出土資料	かみつけの里博物館	企画展
高井桃ノ木遺跡出土資料・写真	群馬県埋蔵文化財調査事業団	報告書作成
柳久保遺跡群出土資料	岩宿博物館	企画展
天神山古墳・前二子古墳出土資料	かみつけの里博物館	企画展

また、例年に引き続き、市内の小学校(二之宮小・荒子小・天川小)に文化財資料の貸出を行った。

(4) 旧3町村要覧作成

事業名 旧3町村要覧作成事業

事業期間 平成18年4月1日～19年3月31日

担当者 大崎 和久

大胡・粕川・宮城、各町村での発掘調査において、報告書が発行されていない遺跡、また出土遺物や写真・図面等が未整理な遺跡がある。これらの遺跡を整理し、文化財保護の普及・啓発のための基礎資料となり、今後の発掘調査の参考にしたりすることを本事業の目的とする。(5ヵ年計画の1年目)

①要覧作成

報告書が未発行な遺跡を中心に発行済み遺跡も含めて、1遺跡あたり6頁を目安に遺跡の概要がわかるものを作成する。

②資料整備

出土遺物、遺構の写真や図面等の整理を行う。旧大胡町の遺物収蔵庫の老朽化もあり、粕川出土文化財管理センターに集約するよう進めている。このとき遺物等の混亂がないよう、PCを用いたデータベース化も行っている。

③他事業との連携

古代生活体験向けに、大胡城発掘調査に係わる写真・図面等資料を用いた教材を作成した。また別件では、広報用途の3DCGやペーパークラフトを作成した。

8 山王庵寺等保存整備事業

(1) 山王庵寺等調査委員会

山王庵寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された、山王庵寺等調査委員会（平成元年12年度発足）において、山王庵寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行なながら事業を実施した。

本年は、「山王庵寺範囲内容確認調査」の開始に伴い、現地視察を中心とした委員会と通常の定例会を2回開催した。第7回目になる委員会は平成18年11月22日に「山王庵寺範囲内容確認調査」発掘調査現場視察並びに總社町山王公民館、また第8回目になる定例の委員会は平成19年2月23日に市庁舎11階南会議室でそれぞれ開催された。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。なお、併せて確認調査の開始に伴い平成18年11月21日に現地において調査部会を開催し指導を仰いだ。

《第7回山王庵寺等調査委員会》

現地視察

発掘調査現場トレーニング各所

《協議》山王庵寺範囲内容確認調査について

①講堂について

②回廊について

③区画溝について

④遺物（瓦）集中部について

協議に関する主な意見としては、次のとおりである。
①講堂部分については、東西24m、南北24mの版築範囲が確認でき、懸案であった講堂の規模を判断することができ、貴重な成果を上げることができた。
②回廊については、今回の調査で講堂東側に等間隔で並ぶ根石が発見され、過去の調査で検出された根石との一致が見られ、存在が明らかとなつた。これから調査を進める部分も含めて、全体の様子について研究を深めていただきたい。

③今回、検出された区画溝にさしては、寺域の北を区画する施設かどうか、今後も計画的にトレーニング調査を実施し、確認を行っていただきたい。

④瓦集中部については、今後も調査を進め、遺構の性格を確認していただきたい。また、取り上げた瓦を研究し、瓦の廃棄時期や、寺周辺の土地利用を検討していただきたい。

《第8回山王庵寺等調査委員会》

報告

- ①元総社蒼海遺跡群発掘調査について
- ②山王庵寺出土瓦の分析について
- ③《協議》山王庵寺範囲内容確認調査計画について

- ①全体計画について
- ②18年度事業報告について
- ③19年度事業計画について

協議に関する主な意見としては、次のとおりである。

- ・ 今年度の調査で講堂の規模が明らかになった。今後は講堂がどのような建物であったか、建築の専門家の意見を積極的に取り入れていただきたい。
- ・ 回廊の北東隅を確認できたので、今後の調査で西側、南側の範囲も確認していただきたい。
- ・ 区画溝については、寺域の北限かどうかだけでなく、区画溝の性格について多面的に調査・検討していただきたい。
- ・ 次年度は、金堂の西側を回廊とともに調査を実施し、中心伽藍の範囲を明らかにしてほしい。
- ・ 過年度調査との相関関係を十分に図りながら、今後の確認調査計画を策定していただきたい。

委員会の様子



委員会の様子

(2) 山王庵寺等調査委員会関係事業

①区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

- ・ 元総社蒼海遺跡群（8）
- ・ 元総社蒼海遺跡群（9）
- ・ 元総社蒼海遺跡群（11）
- ・ 元総社蒼海遺跡群（12）

②元総社公民館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

- ・ 元総社蒼海遺跡群（10）

遠見山古墳出土の埴輪について

1 總社古墳群と遠見山古墳

總社古墳群は、利根川西岸、前橋市西北部に位置し、榛名山東南麓の末端緩斜面地に立地する。後述する遠見山古墳をはじめとして、古墳時代6世紀後期前半の初期の狹長な横穴式石室を持つ全長75mの前方後円墳である玉山古墳、6世紀後半のタイプの異なる2つの横穴式石室を持つ全長90m級の前方後円墳である總社二子山古墳、そして7世紀中葉から8世紀初頭の終末期の大型方墳である愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳を含む古墳群である。昭和10年調査による上毛古墳総観には15基の古墳が上げられている。現存する古墳は6基のみである。(図3)

特に、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳と続く大型方墳は、7世紀の古墳としては、上野地域最大級であり、家型石棺や巨石使用の大型横穴式石室、截石切組型石室に白色塗喰を塗布し家型石棺を置くなどその内容は特筆され、畿内中央の有力豪族の墓にも匹敵する内容をもった古墳であるといえる。

この總社古墳群における方墳群の成立や山王廃寺の造営はこの總社の地が、やがて国府が置かれる古代上野地域における最重要地城として位置づけられていく背景の一つとなっているとも言えよう。

遠見山古墳は、前橋市總社町總社甲1410番地他に所在する。現存長60m程の前方後円墳である。(図4)これまで、開発に伴う試掘調査が、平成3年8月30日(城川I遺跡)1405番地、平成4年1月27日から同1月30日(城川II遺跡)1408番地、(平成3年度 市内遺跡発掘調査報告書)平成6年8月3日、(平成6年度 市内遺跡発掘調査報告書)1373番地と3回にわたって実施されている。いずれも、市内遺跡発掘調査報告書に概要が記載されている。平成3年度の市内遺跡発掘調査報告書では、出土埴輪についても紹介されている。しかしながら、残念なことに、その遺物については所在が不明となっている。

平成17年、總社町總社在住の志坂昭氏より、埴輪等の寄贈を受けた。出土した場所については、遠見山古墳の南東に隣接している土地で、遠見山古墳の周囲が想定されている地内である。いずれも、耕作中の出土ということで、出土位置を特定することはできないが、總社古墳群中最古に位置づけられる可能性がある遠見山古墳出土の遺物ということで、注目し、ここに報告することとした。また、合わせて、これまで、群馬大学や前橋市教育委員会で行われてきた總社古墳群中の過去の調査成果について、これまで公表してきた資料を含め取り纏め總社古墳群の再確認、前橋市域における歴史的な位置づけを行っておくこととした。

前橋市による總社古墳群の調査一覧

古墳名	調査年月日	調査概要	収録文書等	報告者
總社二子山古墳	平成5年6月12日	周囲の一部調査	(平成5年度市内遺跡発掘調査報告書)	前橋市教育委員会
愛宕山古墳	平成7年9月8日から平成8年3月25日	中学校新築に伴う調査	「總社愛宕山遺跡」1996	前橋市埋蔵文化財調査課
蛇穴山古墳	昭和50年8月1日から8月16日	環境整備事業に必要な基礎資料作成のための調査。	「史跡 蛇穴山古墳調査報告書」1976	前橋市教育委員会
宝塔山古墳	昭和43年3月4日から3月14日	前庭部調査の概要		
		宝塔山古墳石塔修理に係る効率調査。		
		下水道調査時の記録。		
遠見山古墳	平成10年10月15日から平成11年3月5日			
	平成3年8月30日	(城川I遺跡)1405番地	(平成3年度 市内遺跡発掘調査報告書)	前橋市教育委員会
	平成4年1月27日から1月30日	(城川II遺跡)1408番地		
	平成6年8月3日	1373番地	(平成6年度市内遺跡発掘調査報告書)	前橋市教育委員会
王山古墳	昭和49年5月15日から7月27日 平成8年8月19日		(文化附報告書第5集) 1975 (平成8年度 市内遺跡発掘調査報告書)	前橋市教育委員会

2 寄贈遺物について(図1)

寄贈された遺物の総量は237点である。内、形象埴輪と考えられる破片は、3点、円筒埴輪の破片と考えられるものは、234点であった。

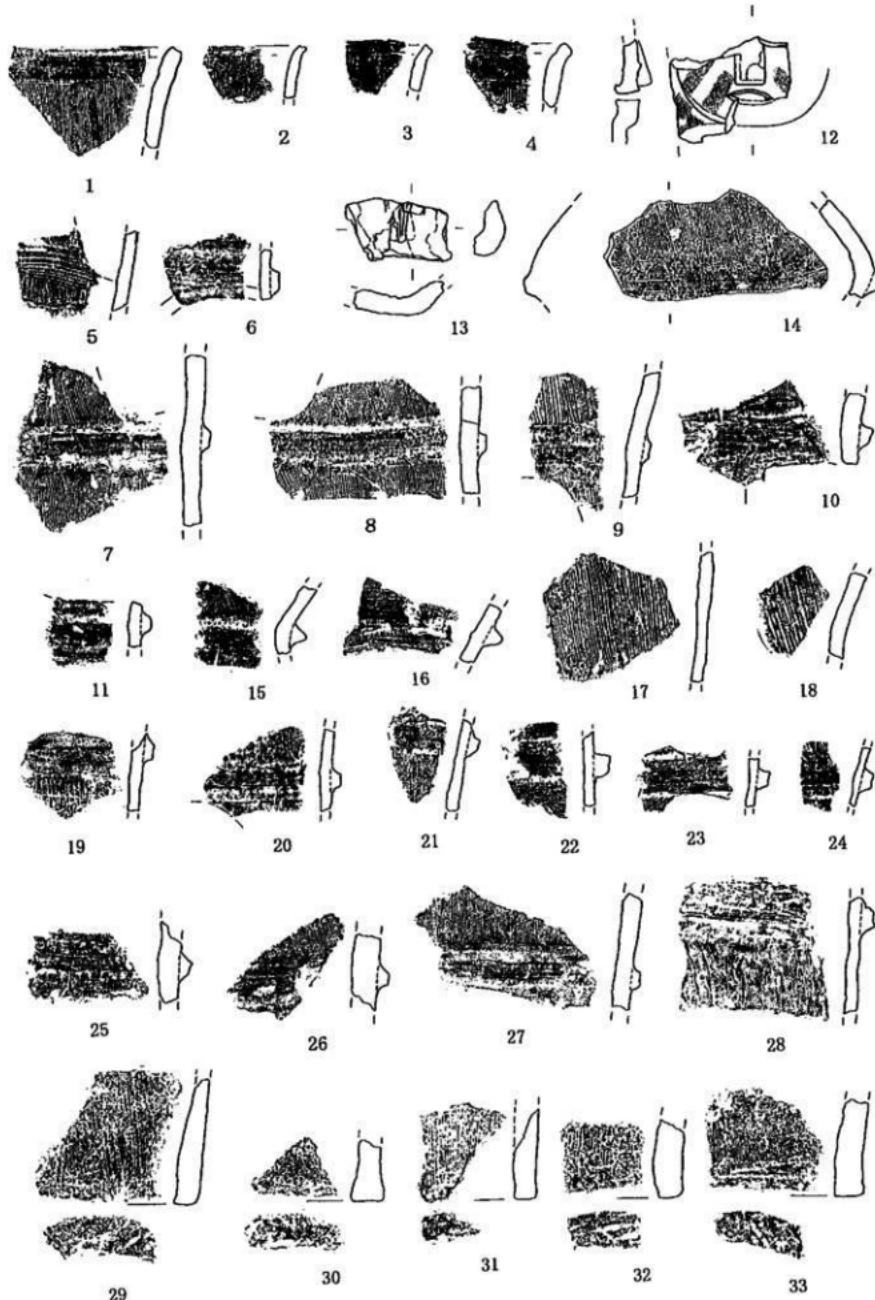
12は人物埴輪の顔面部破片である。2点が接合する。左眼孔部及び左口唇から下顎部の一部が残る。下顎部には鼻から頬に向けて斜め下方に赤色塗彩による2本の線による刺青の表現が残る。胎土は良く精選されている。13は12とは別體であるが、人物埴輪の左上腕部の一部と思われる。12に比べ造りは粗雑で、胎土には火雜物を多く含む。14は人物埴輪の蓑笠部下端の一部と考えられる。胎土は精選されている。全面にハケ調整が施され

る。12~14は、いずれも人物埴輪の一部であり、推定される全身像高は小ぶりで、赤色塗彩や白色の胎土の使用など県内の初期人物埴輪の特徴を良く備えている。

円筒埴輪は、赤色塗彩されたもの(2, 4, 18)やB種横ハケを持つ円筒埴輪(5, 22, 23)が認められる。また、方形あるいは矩形と考えられる透かし孔とを持つ円筒埴輪(5, 6, 10)も認められる。タガの断面形状は、はつきりとして高く、断面形状が台形状を成すもの(22, 23, 24)が多く認められる。

图1 寄赠遗物

S=1/4



3 平成3年度調査資料再録（図2）

平成3年度市内遺跡発掘調査報告書に収録された埴輪について、再録しておく。「検出された埴輪は全て円筒埴輪片であるが、大別すると二種類に分けられる。赤色塗彩がみられるものは、2, 4, 9, 10, 13, 15, 25, 38, 39である。これらは焼成良好で褐色を呈す。塗彩は確認できないが同じ焼成のものに、1, 3, 5, 11, 12, 14, 16, 36, 41, 43がある。」

この焼成のものは多くが突縁の断面形が平坦な台形を呈するものが多く、他は方形の断面を呈するものが多くみられる。前者のうちには突縁の上面が窪んでいるものも含まれておる（3, 12, 14, 41）、さらに細かい分類が可能である。また、すかし孔が確認できるものは25, 26, 37, 43の4点であるが、25と他では孔の加工が異なり、25は内径が狭くえぐられている。25は前者の一群に含まれる。」

図2（23, 42）にはB種横ハケが認められる。

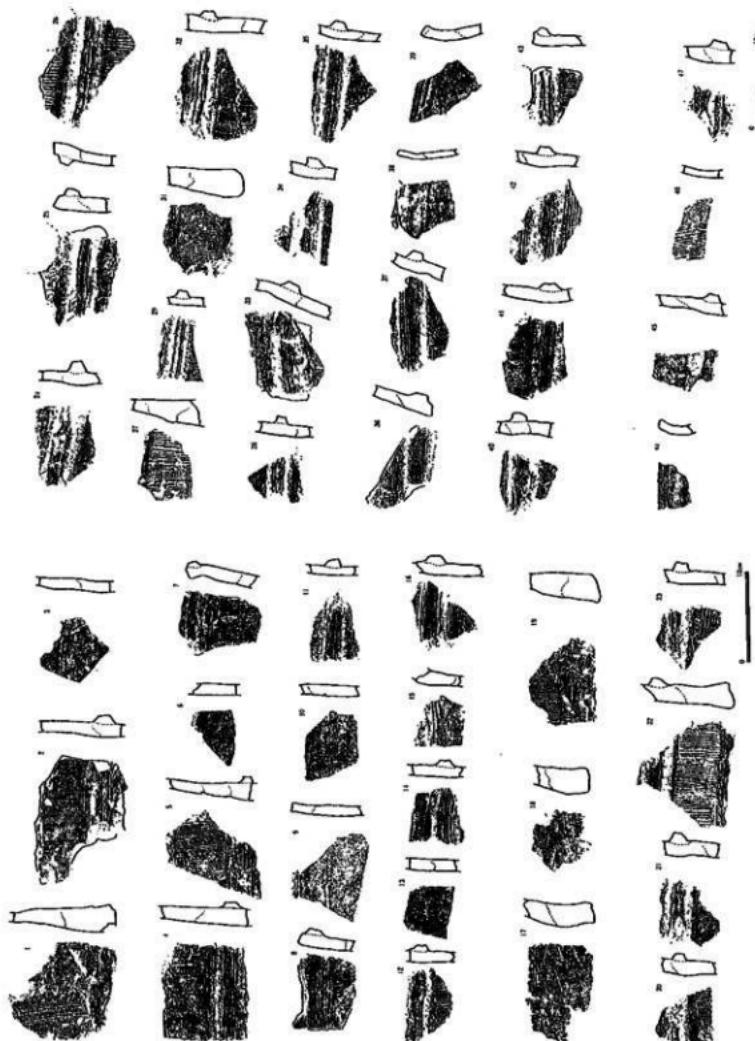


図2 平成3年度調査資料

4 遠見山古墳の時期

遠見山古墳は、これまでの3回行われた試掘調査によって、推定全長102m、後円部径52m、前方部の最大幅62m、周囲の上幅10m前後が推定される大型前方後円墳であることが確認されている。平成3年度の試掘調査では、周囲の一部を基底部まで掘り下げている。その際、基底部より約3cm上にHr-FAの純層を検出している。

(図5)

出土埴輪の特徴からは、5世紀後半から6世紀前半の時期が想定される。また、平成3年度の調査資料からは、周囲内にHr-FAの純層が検出されている。以上のことより、遠見山古墳の築造時期は、これまでの想定年代5世紀後半を大きく超ることは無く、採集された人物埴輪

に認められる特徴は、群馬県における出現期の人物埴輪の特徴を良く残す。また、円筒埴輪については、B種横ハケを残す点、赤色塗彩される点など、いずれも、中期後半から6世紀前半の特徴を示している。

これらの出土遺物の特徴からもその年代観は支持できる。すなわち、これまでのところ、遠見山古墳は、總社古墳群中最も古い古墳であるといえる。

總社古墳群は、遠見山古墳が始まり、王山古墳—總社二子山古墳（後円石室）—（前方部石室）—愛宕山古墳—宝塔山古墳—蛇穴山古墳という系譜となる。特に7世紀前半の中斷時期を挟んで作られる方墳群は、古墳時代の悼尾を飾るとともに、まさに古墳時代から律令期にかけての上野地域最大の豪族の存在が考えられる。



図3 總社のおもな遺跡と遠見山古墳

5 終わりにかえて

総社古墳群の発掘調査については、昭和43年の宝塚山古墳の前庭部の調査から始まる。その後、前橋市教育委員会による王山古墳の調査や数次にわたる小規模な試掘調査、学校新築工事に際しての発掘調査などを経ている。それぞれ、概報や年報等に報告がされているが、これら

を前橋市として総合的にまとめたものが無く、今回の報告は、それらの概出報告を再録することを企画したものであったが、既に40年近い年月がたっており資料の抽出に困難を要している。その為、今回は既に、5世紀の古墳として定着しつつある遠見山古墳について、再度、採集資料を通して、その時期的位置づけを再確認したにとどまった。



図4 遠見山古墳平面図

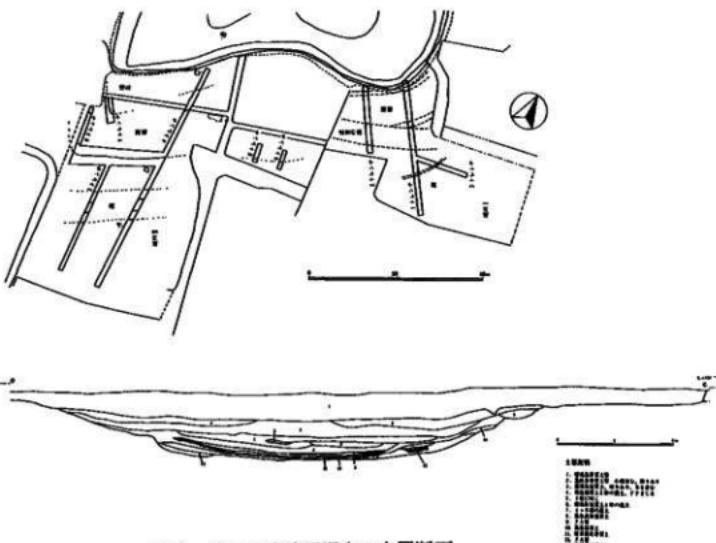


図5 遠見山古墳周塙内の土層断面

あとがき

平成 18 年度は文化財保護室として発足以来、20 年の節目の年でありました。これを契機に「もっと身近に もっとやさしく」を本課のキャッチフレーズとし、市民の皆様にもっと親しんでいただくことを念頭に仕事を進めてまいりました。

文化財保護行政は継続や累積が大事といわれますが、20 年間継続してきた事業の前進を図るとともに、新たに文化財地図の作成や史跡整備委員会、山王廃寺調査、市民プロジェクト等を発足させた年でもありました。これらの事業についても今後継続発展させるよう、新しい歩みを始めていきたいと考えております。

本書をご覧になられた方々のご意見を頂くと共に、本書が利活用されることを願っています。

平成 19 年 11 月 30 日

文化財保護課長 駒倉 秀一

平成 18 年度

前橋市文化財調査委員会

阿久津 宗二
井上 唯雄
梅澤 重昭
松島 荣治

平成 18 年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	駒倉 秀一
○文化財保護係	
課長補佐兼文化財保護係長	小島 純一
副主幹	中嶋 茂樹
主 査	木暮 良久
"	丸山 正家
主 任	高橋 一彦
"	岩崎 琢郎
"	馬場 崇
"	伊與久伸子
"	近藤 薫
嘱託員	山本 菜美
○埋蔵文化財係	
埋蔵文化財係長	前原 豊
副主幹	梅澤 克典
主 査	鎌木 雅浩
主 任	高橋 亨
"	小嶋 尚
"	近藤 雅順
"	大崎 和久
"	後藤 俊継
"	須藤 健夫
"	阿久澤 真一
"	神宮 聰
"	横澤 敦子
主 事	池田 史人
文化財整備指導員	前原 照子
嘱託員	綿貫 綾子
"	遠藤 たか美

年報 第 37 集 平成 18 年度文化財調査報告書

平成 19 年 11 月 30 日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三保町 2-10-2

